

EPSON

Endeavor AT992E



ユーザーズマニュアル

Windows 7

ご使用前に

- コンピューターをご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。

情報マップ (知りたい情報はどこにある?)

本機に関する情報は、次の場所で見ることができます。

購入時

使いはじめ

使いこなしたいとき

困ったとき

故障したとき

やりたいこと

- 本機の添付品を知りたい
- Windowsをセットアップしたい

- 本機を設置したい

- インターネット/メールをしたい
- Windowsの操作方法を知りたい
- 用語を調べたい

- ソフトウェアの操作方法を知りたい
- 周辺機器(プリンター、デジタルカメラなど)を使いたい

- オプション製品(キーボード、マウス、拡張ボード、ソフトウェアなど)を使いたい

- 光ディスクメディア、メモリーカードを使いたい(機器搭載時) **p.34、p.41**



- サウンドの設定をしたい **p.54**



- セキュリティー設定をしたい **p.62**



- 装置を増設したい(メモリー、拡張ボード、HDD) **p.73**



- 添付ソフトを知りたい **p.20**

- UEFIの設定を変更したい **p.95**

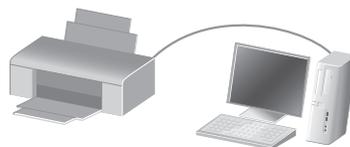
- HDD領域を変更したい **p.162**

- 再インストール(リカバリー)をしたい **p.121**

- 省電力で使いたい **p.67**

- 本機の仕様を知りたい **p.169**

- USB機器を接続したい **p.46**



- 消去禁止領域のデータをバックアップしたい **p.159**

- トラブルを解決したい **p.137**

- システム診断をしたい **p.154**

- サポート・サービス情報を知りたい

- 修理を依頼したい



紙マニュアル

紙で添付されている情報です。



PC お役立ちナビ

コンピューターの画面で見る電子の情報です。

情報の場所



『スタートアップガイド』



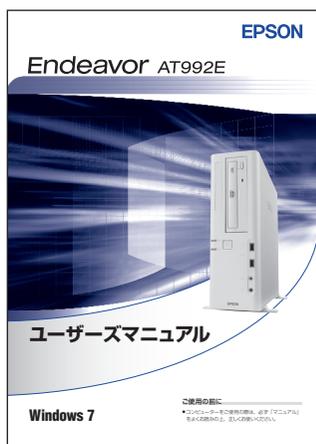
[お役立ち]



オプション製品の
マニュアル



ユーザーズマニュアル(本書)



PCお役立ちナビ p.4



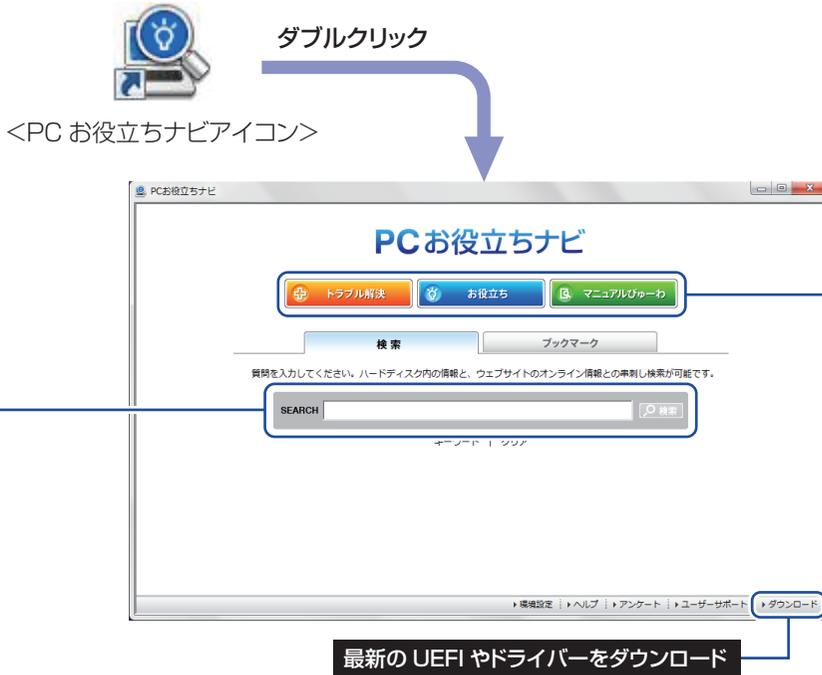
[トラブル解決]



『サポート・
サービスのご案内』

知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ

本機には、知りたい情報を簡単に検索できるサポートツール「PC お役立ちナビ」が搭載されています。困ったときや、役立つ情報を知りたいときなどにお使いください。最新のUEFI やドライバーもダウンロードできます。

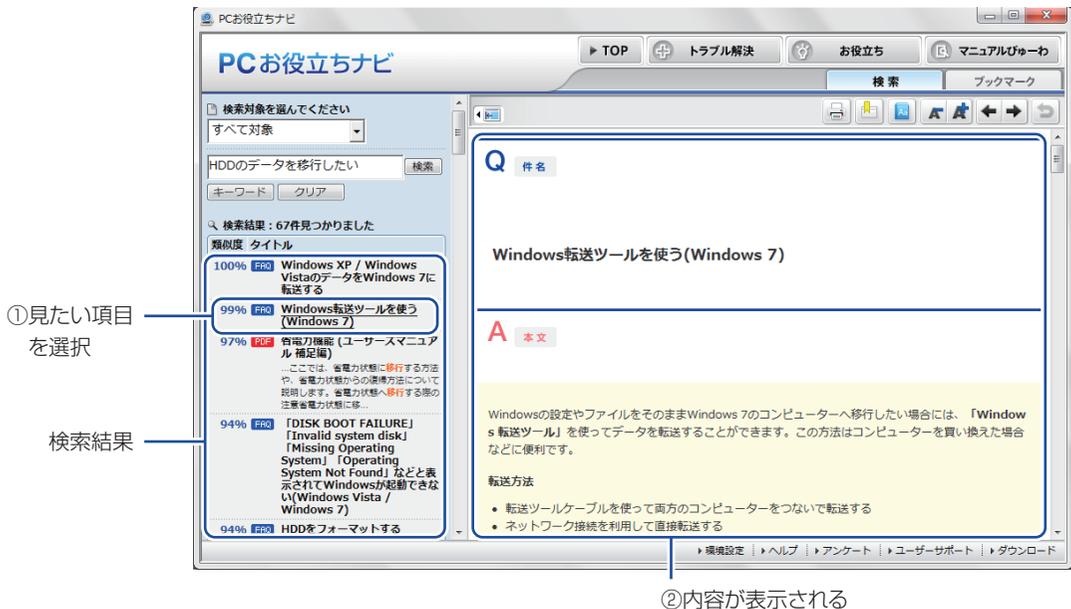


① 検索をする

TOPページから
検索実行

本機に収録されている情報+ユーザーサポート
ページのオンライン情報を一度に検索

※本機に収録されている情報 = サポートコンテンツ・マニュアル (PDF)・ヘルプなど
※インターネットに接続していない場合は、本機に収録されている情報のみを検索します。



② 内容が表示される

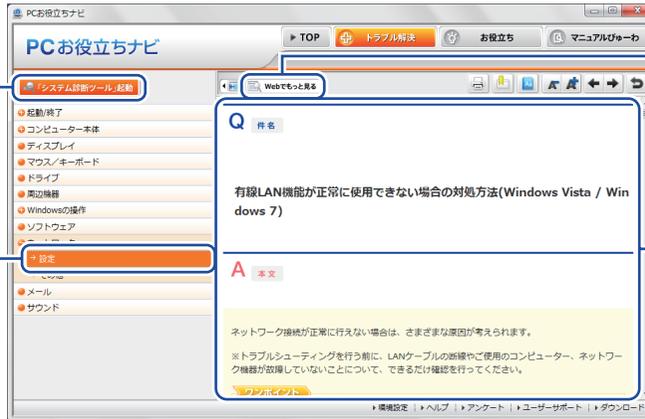
② おすすめコンテンツ・マニュアルを見る

トラブル解決

トラブル解決に役立つ情報や、システム診断ツールを収録しています。

システム診断
を実行

①トラブルの種類
を選択



もっと情報が見たい
とき→Webへ

②内容が表示される

お役立ち

コンピューターの便利な使い方や、役立つ情報を収録しています。

①情報の分類を
選択

②見たい項目を
選択



もっと情報が見たい
とき→Webへ

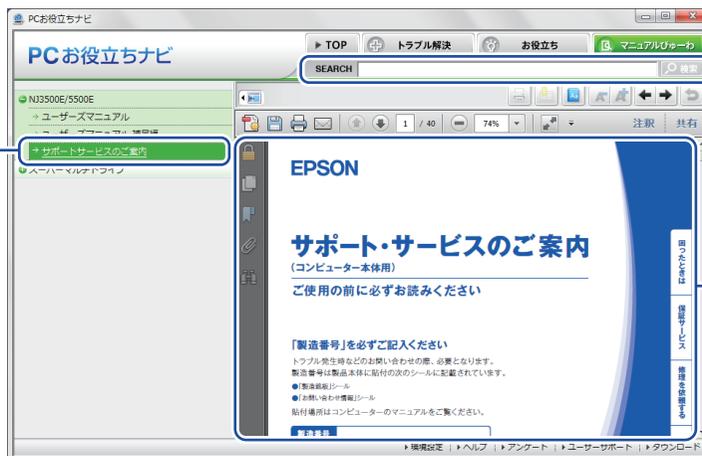
[お役立ち] 内の
情報を検索

③内容が表示される

マニュアルびゅーわ

本機に添付されているマニュアルの PDF データを収録しています。

①見たいマニュアル
を選択



[マニュアルびゅーわ]
内の情報を検索

②マニュアル(PDF)
が表示される

<イメージ>

目次

ご使用の前に

製品保護上の注意.....	10
マニュアルの読み方.....	13
各部の名称.....	18
添付されているソフトウェア.....	20

1

コンピューターの基本操作

Windows 操作のヒント.....	24
マウスを使う.....	28
キーボードを使う.....	29
HDD の概要.....	32
光ディスクメディアを使う.....	34
メモリーカードを使う.....	41
USB 機器を使う.....	46
画面表示機能.....	48
サウンド機能.....	54
ネットワーク機能.....	58
インターネットを使用する際のセキュリティー対策...	62
省電力機能.....	67
その他の機能.....	71

2

装置の増設・交換

増設・交換できる装置.....	74
作業時の注意.....	75
装置装着時の作業.....	76
メモリーの装着.....	79
拡張ボードの装着.....	84
HDD の装着.....	89

3

UEFI の設定

UEFI の設定を始める前に.....	96
UEFI Setup ユーティリティの操作.....	97
UEFI Setup ユーティリティの設定項目.....	110

4

ソフトウェアの再インストール

再インストールの前に.....	122
Windows のインストール.....	125
ドライバー / ソフトウェアのインストール.....	131
再インストール後の作業.....	134

5

困ったときは

トラブルが発生したら.....	138
起動・画面表示できないときは.....	140
トラブル時に効果的な対処方法.....	145

付録

お手入れ.....	158
消去禁止領域のデータをバックアップする.....	159
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化... ..	161
HDD 領域の変更.....	162
コンピューターを廃棄するときは.....	166
機能仕様一覧.....	169



ご使用前に

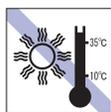
本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

製品保護上の注意.....	10
マニュアルの読み方.....	13
各部の名称.....	18
添付されているソフトウェア.....	20

製品保護上の注意

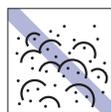
使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。

故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は 10℃～35℃です。



ホコリの多い所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。



温度が低い場所から温度が高い場所へ本機を急に移動させると、結露が発生する場合があります。

結露したまま本機を使用すると、故障、誤動作の原因となります。

結露が発生した場合は、本機が室温と同じくらいの温度になるのを待ってから、使用してください。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。

また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。

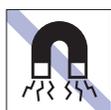


他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



不安定な所には設置しないでください。

落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。

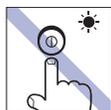


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するもの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。

電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えてしまいます。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



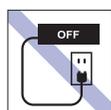
本機の上には重い物を載せないでください（本機を横置きで使用する場合は、18kg までのディスプレイを載せることができます）。

重圧により、故障や誤動作の原因となります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



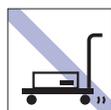
コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。

電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。

内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。

配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。
衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



無停電電源装置（UPS）を使用する場合は、正弦波出力のUPSを使用してください。正弦波出力以外のUPSを使用すると、本機が起動できなくなったり、動作が不安定になったりする場合があります。

記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

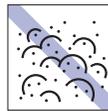
記録メディアの種類

CD 光ディスクメディア **MC** メモリーカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



上に物を載せないでください。



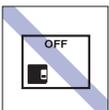
キズを付けしないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。

内側から外側に向かって拭いてください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD 専用クリーナーを使ってください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングする CD は使わないでください。

CD



金属端子には触れないでください。

MC



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

MC



金属端子にホコリや水を付けしないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

MC

マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。



レンズ部分に触れないでください。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。

マニュアルの読み方

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPU の種類・メモリー容量・光ディスクドライブなど、選択された仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピューターとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピューターの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバーのインストール方法などは、購入時に選択された各装置のマニュアルを参照してください。

メモリー	: 1 枚
HDD	: 1 台
光ディスクドライブ	: 1 台
ディスプレイ機能	: CPU の機能を使用
ネットワーク機能	: マザーボードの機能を使用
サウンド機能	: マザーボードの機能を使用

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、「ユーザーズマニュアル」（本書）とは別に提供されている場合があります。

お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で提供されていますので、ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROM などに収録されている電子マニュアル（PDF ファイルなど）
- 「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」に収録されている電子マニュアル

マニュアル中の表記

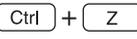
安全に関する記号

本書では次のような記号を使用しています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

本書では、次のような一般情報に関する記号を使用しています。

	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
	手順が次ページに続くことを示します。
	 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  は Enter キーを表します。また、  は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
	+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。 この例では、  を押したまま  を押します。

参照先に関する記号

本書では、次のような参照先に関する記号を使用しています。

	本書内の参照ページを示します。
	別冊子を示します。
「 」	冊子の名称を示します。 例) 『サポート・サービスのご案内』
	サポートツール「PC お役立ちナビ」を示します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
光ディスクメディア	CD メディア、DVD メディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリーカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SD メモリーカード、スマートメディア、コンパクトフラッシュの総称

オペレーティングシステム (OS) に関する表記

本書では、オペレーティングシステム (OS) の名称を次のように略して表記します。

Windows 7 32bit 版	Windows [®] 7 Ultimate 32bit 版 Windows [®] 7 Professional 32bit 版 Windows [®] 7 Home Premium 32bit 版
Windows 7 64bit 版	Windows [®] 7 Ultimate 64bit 版 Windows [®] 7 Home Premium 64bit 版 Windows [®] 7 Professional 64bit 版

HDD 容量の記載

本書では、HDD 容量を 1GB (ギガバイト) = 1000MB として記載しています。

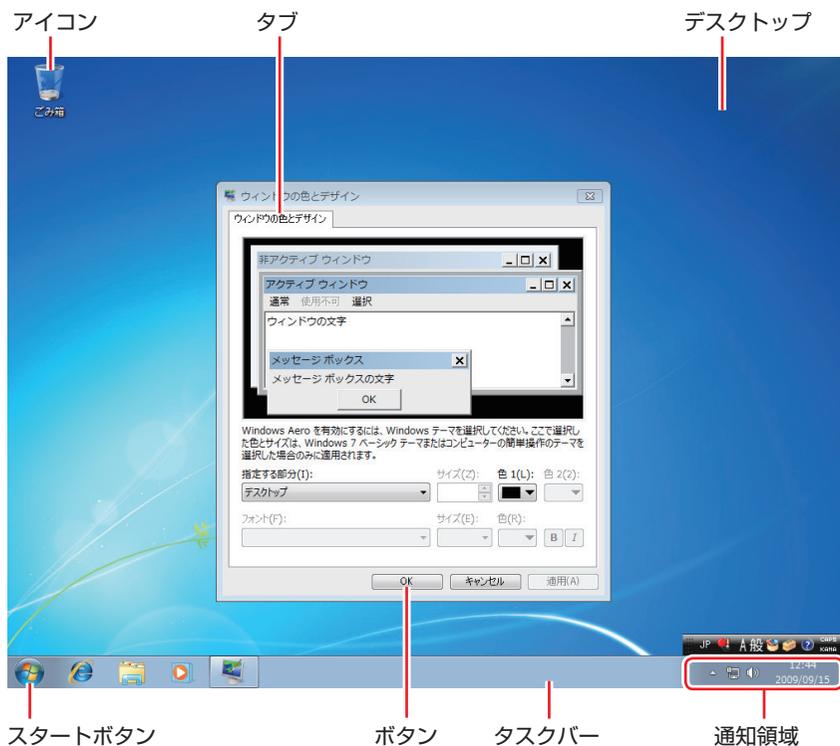
メモリー容量の記載

本書では、メモリー容量を 1GB (ギガバイト) = 1024MB として記載しています。

Windows の画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows の画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

ボタンは [] で囲んで記載しています。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

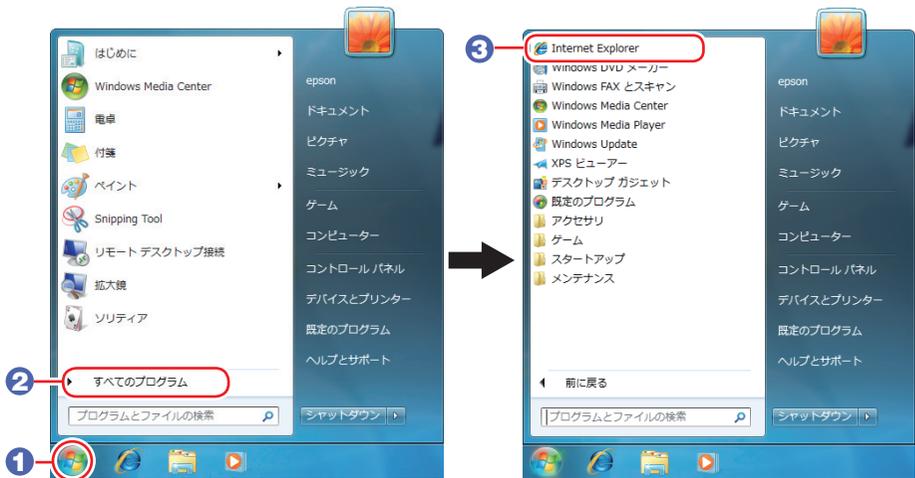
本書では、Windows の画面上で行う操作手順を次のように記載します。

● 記載例

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」 をクリックします。

● 実際の操作

- 1 【スタート】 をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
- 3 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

コントロールパネル

本書では、コントロールパネルの表示が、「カテゴリ」であることを前提に記載しています。



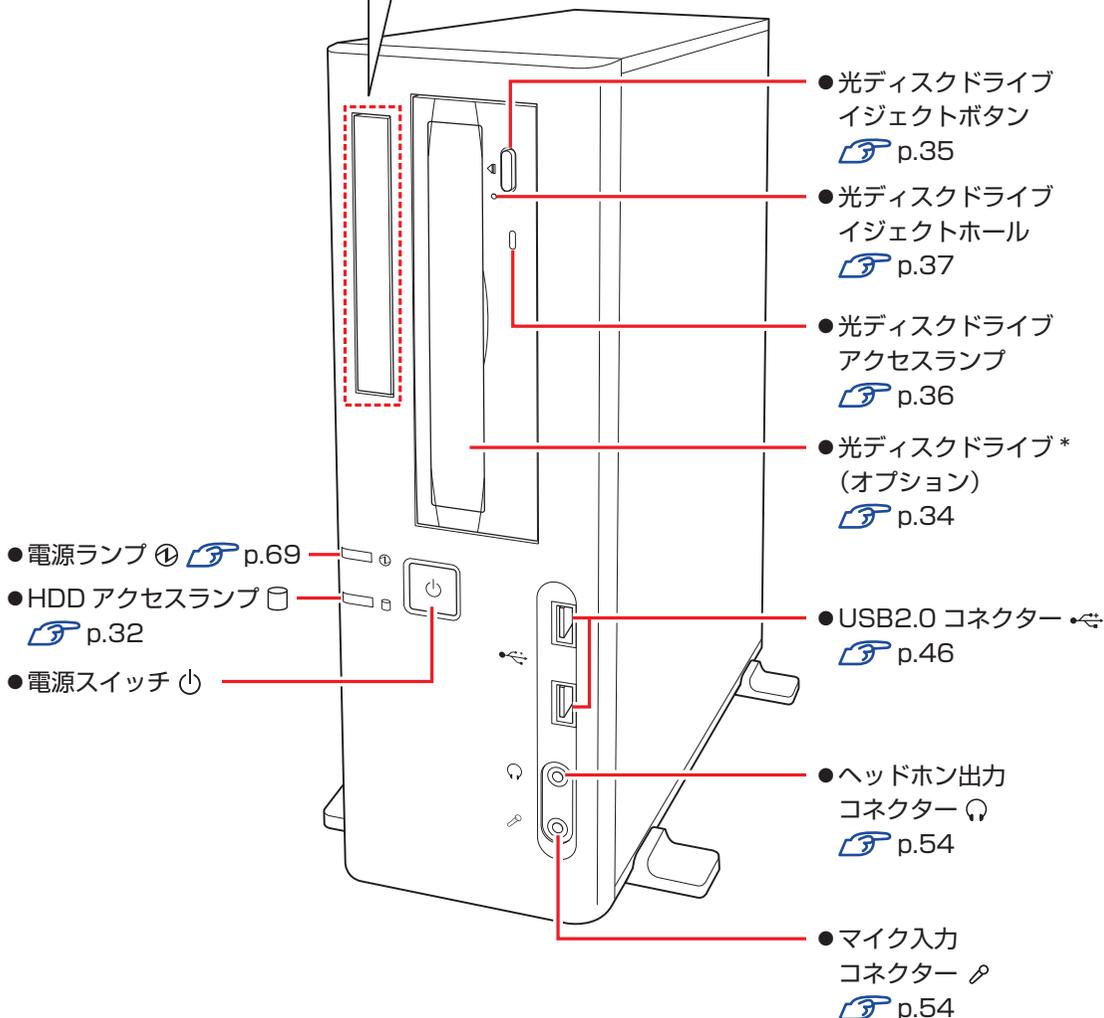
<表示方法：カテゴリ>

各部の名称

本体前面

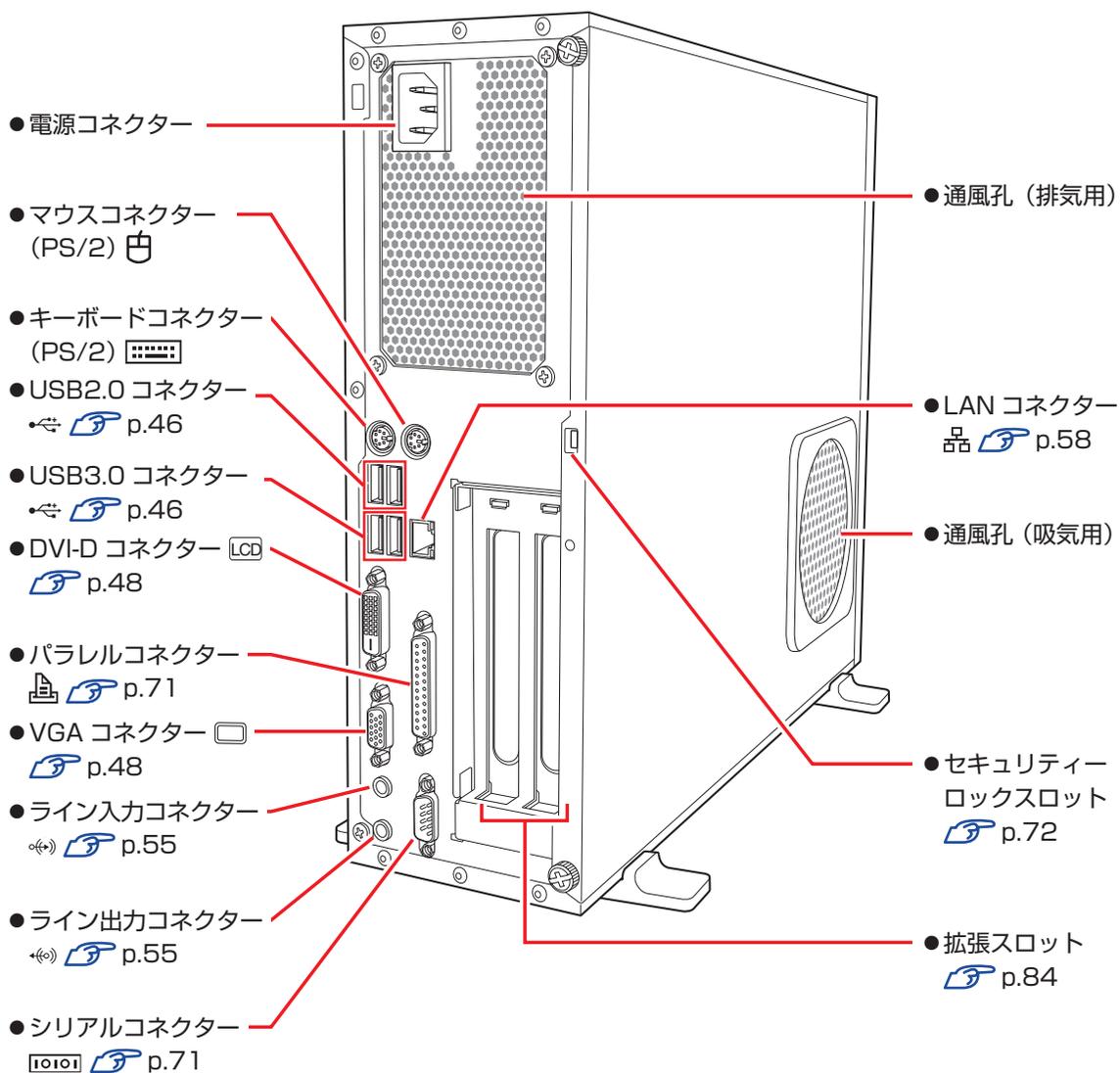
マルチカードリーダー (オプション)  p.41

- メモリースティック
スロット 
- マルチカードリーダー
アクセスランプ 
- コンパクトフラッシュ
スロット 
- スマートメディア
スロット 
- マルチメディア
カード / SD カード
スロット 



* イラストはイメージです。光ディスクドライブの種類によって、各部の位置や形状などは異なります。

本体背面



添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアについて説明します。

表中記号の見方

	ソフトウェアのインストール用データは添付の DVD または CD に収録されています。
	ソフトウェアのインストール用データは HDD の「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。



消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ

HDD の「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアは、USB 記憶装置にバックアップすることができます。

 p.159 「消去禁止領域のデータをバックアップする」

本機にインストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● Windows 7 本機のオペレーティングシステム (OS) です。	 Windows 7 リカバリー DVD
<ul style="list-style-type: none">● リカバリーツール  p.131、p.159 HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	 リカバリーツール CD
<ul style="list-style-type: none">● 本体ドライバー<ul style="list-style-type: none">• チップセットドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。• Intel Management Engine ドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。• ビデオドライバー CPU のビデオ機能を使用するためのドライバーです。• サウンドドライバー マザーボード上のサウンド機能を使用するためのドライバーです。• ネットワークドライバー マザーボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバーです。• USB3.0 ドライバー USB3.0 を使用するためのドライバーです。• マルチカードリーダーアイコンユーティリティ (機器搭載時) オプションのマルチカードリーダーでアイコンを表示するためのユーティリティです。• Microsoft .Net Framework 4.0 .Net Framework 4.0 で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。	 消去禁止領域

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ●PC お役立ちナビ コンピューターの情報を簡単に検索できるサポートツールです。システム診断ツールも含まれています。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ●Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●Windows Essentials  p.26 「Windows Live メール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●Internet Explorer 11 Web ページを閲覧するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●Skype インターネット経由で通話やチャットができるアプリです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●WinDVD  p.38 (光ディスクドライブ搭載時) DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●Nero 12 Essentials  p.39 (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。 	

必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

必要に応じてインストールするソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ●ウイルスバスター クラウド 90 日版 *  p.63 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能などを備えたセキュリティアプリです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ●i-フィルター 6 30 日版 *  p.66 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを制限する Web フィルタリングソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●Endeavor 電源プラン設定ツール *  p.70 本機に節電設定を行うためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●セキュリティチップユーティリティ  p.161 セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●ATOK 無償試用版 (30 日間) * 日本語変換に優れた、日本語入力システムです。 	

* 購入時は、「初期設定ツール」からインストールすることができます。

CD から起動するソフトウェア

次のソフトウェアは、CD から起動して実行します。インストールは必要ありません。

CD から起動するソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">●システム診断ツール  p.154 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD 内のデータを消去することもできます。	 リカバリーツール CD

1

コンピューターの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について説明します。

Windows 操作のヒント.....	24
マウスを使う	28
キーボードを使う.....	29
HDD の概要.....	32
光ディスクメディアを使う	34
メモリーカードを使う	41
USB 機器を使う	46
画面表示機能	48
サウンド機能	54
ネットワーク機能.....	58
インターネットを使用する際のセキュリティー対策...	62
省電力機能	67
そのほかの機能.....	71

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。

Windows 7の使用方法

Windows 7 の使用法は、次をご覧ください。

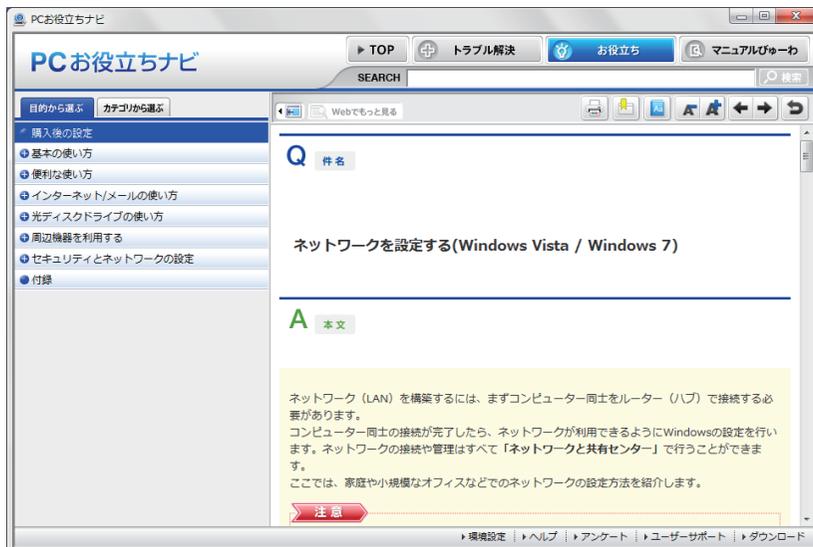
●ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] - [ヘルプとサポート]



●「PC お役立ちナビ」 - [お役立ち]



フォルダーメニューの表示

「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューは、標準では表示されません。フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の場所で設定します。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」 - 「フォルダーオプション」 - 「表示」タブ - 「常にメニューを表示する」

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」 - 「ユーザーアカウント」 - 「別のアカウントの管理」 - 「新しいアカウントの作成」

※ユーザー名は半角英数字を入力してください。

作成時、ユーザーに応じてユーザーアカウントの種類（権限）を設定してください。ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

●管理者

すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

購入時やリカバリー時の Windows のセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

Windows Essentials

本機には Windows Essentials の以下のソフトウェアがインストールされています。

- フォトギャラリー
- ムービーメーカー
- Windows Live メール
- Windows Live Writer
- Microsoft OneDrive

起動方法

Windows Essentials の各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- Windows Essentials のヘルプと使い方
<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows-live/essentials-help-center>

Windows Live ID を作成する

Windows Live を使用するには、Windows Live ID (Microsoft アカウント)が必要になります。

サポートについて

Windows Live のサポートは、マイクロソフト社で行っています。
サポートの詳細は、次の Web ページをご覧ください。

<http://support.live.com>

マウスを使う

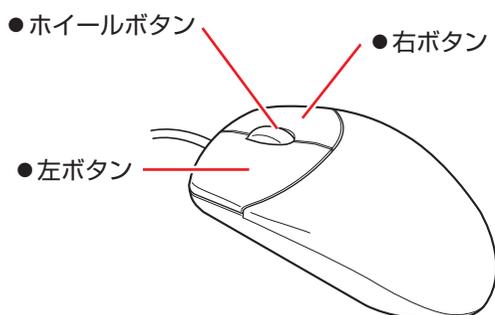
ここでは、一般的なマウスについて説明します。

マウスのマニュアル（冊子または PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

マウスの操作

！ 制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- ソフトウェアによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。
- 本機が省電力状態や電源を切った状態であっても、マウスによっては底面のランプが光り続けます。これは、お使いのマウスの仕様です。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを 1 回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを 2 回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを 1 回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【ハードウェアとサウンド】 - 【マウス】

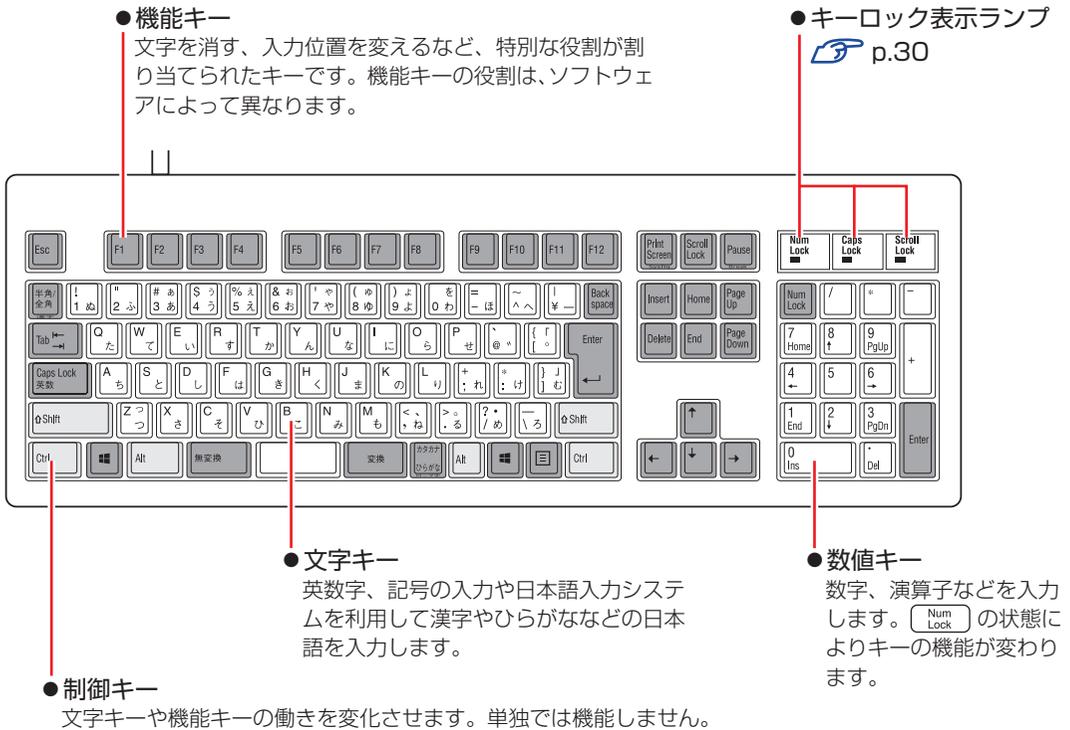
キーボードを使う

ここでは、一般的なキーボードについて説明します。

キーボードのマニュアル（冊子または PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。

入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

● **入力モード**
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

● **ヘルプ**
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。



● **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ

キーボード右上の 3 つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字 / 小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

PS/2キーボードからの起動

PS/2 キーボードでは、設定したキーを押すと、次のようなことができます。

- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる

 p.69 「省電力状態からの復帰方法」

制限

- この機能は、USB 接続やコードレスのキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。

購入時、本機は **Ctrl** + **Esc** で起動できるように設定されています。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」－「Power On By PS/2 Keyboard」

 p.98 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.114 「Power メニュー画面」

HDD の概要

HDD（ハードディスクドライブ）は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

！ 制限

- HDD アクセスランプ点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点滅中は、コンピューターが HDD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDD が故障した場合、HDD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD に記録されている重要なデータは、光ディスクメディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－【お役立ち】－「カテゴリから選ぶ」－「Windows の操作」－「バックアップ」

購入時のHDD領域

購入時の HDD は、お客様の選択により次のように設定されています。
すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

通常

HDD	ドライブ（領域）	容量
1 台目	消去禁止領域	5GB
	C ドライブ	残り
2 台目（オプション）	D ドライブ	2 台目すべて

HDD 設定変更サービスを選択された場合

HDD	ドライブ（領域）	容量
1 台目	消去禁止領域	5GB
	C ドライブ	購入時に選択された容量
	D ドライブ	残り
2 台目（オプション）	E ドライブ	2 台目すべて

🔍 参考

HDD 設定変更サービス

HDD 設定変更サービスとは、1 台目の HDD の領域を C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データや、「Windows 回復環境（Windows RE）」が設定されています。

この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバーやソフトウェアのインストールができなくなります。

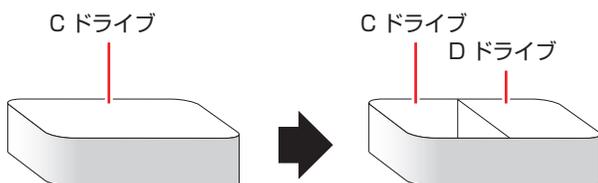
「消去禁止領域」内の本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、USB 記憶装置にコピー（バックアップ）することもできます。

 p.159 「消去禁止領域のデータをバックアップする」

HDDを分割して使用する

1 台の HDD をいくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

例：1 つの HDD 領域（C ドライブ）を 2 つの HDD 領域（C ドライブと D ドライブ）に分割することができます。



詳しくは、 p.162 「HDD 領域の変更」をご覧ください。

HDDを増設・交換したら

HDD を増設・交換した場合は、 p.163 「HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）」をご覧ください。



制限

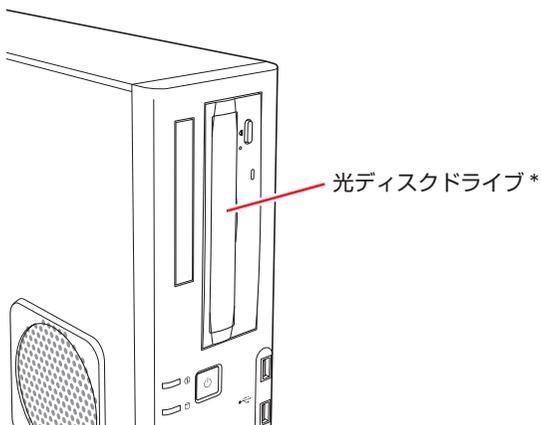
すでにデータが登録されている HDD にドライブを作成すると、その HDD に保存されていたすべてのデータが消失します。ドライブを作成する前に、重要なデータが保存されていないことを確認してください。

光ディスクメディアを使う

光ディスクドライブ搭載時

本機には、購入時に選択されたシリアル ATA 仕様の光ディスクドライブが搭載されています。
※ 光ディスクドライブなしを選択された場合は、搭載されていません。

光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



* イラストはイメージです。光ディスクドライブの種類によって、各部の位置や形状などは異なります。



光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。
飛び散って、けがをする危険があります。



光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。
はさまれると、けがの原因になります。

制限

- 光ディスクドライブを長期間使用しないと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが開かないことがあります。定期的（3 ヶ月に 1 回程度）にイジェクトボタンを押して、ディスクトレイの開閉を行うことをおすすめします。
万一開かなくなった場合は、イジェクトホールを使用してみてください。
 p.37 「強制的な光ディスクメディアの取り出し」
- 本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みや DVD の再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」

光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。



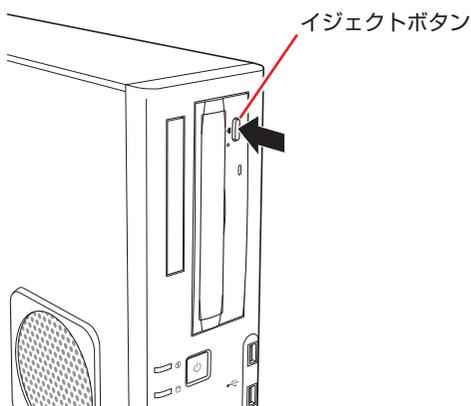
制限

- アクセスランプ点滅中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。また、縦置き時、8cm のメディアは使用できません。

セット方法

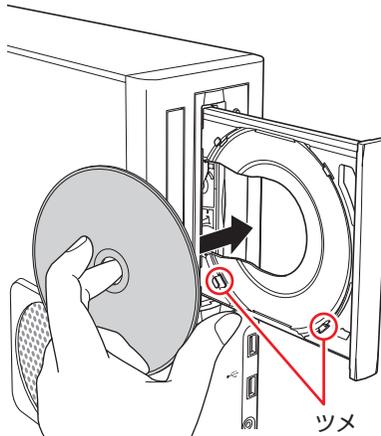
1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある落下防止用のツメ（下側2箇所）にセットします。

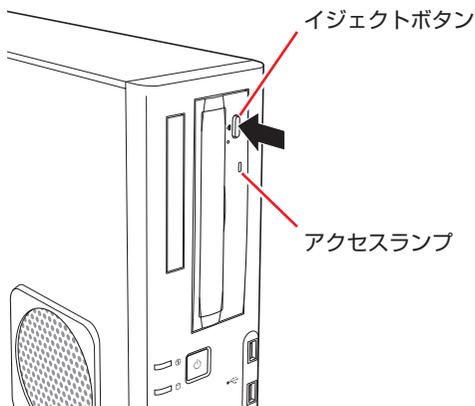
本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1** アクセスランプが点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。

- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

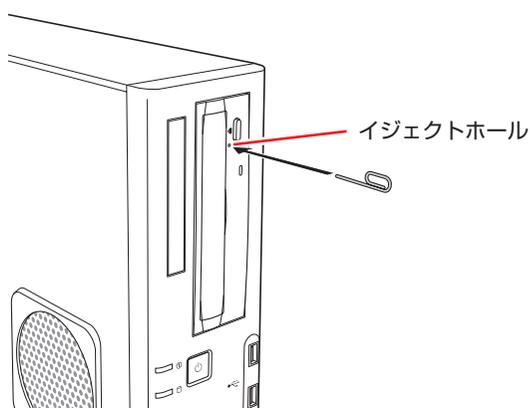
強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2** イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。



- 3** ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録された DVD メディアを読み込めるほかに、DVD VIDEO などの再生ができます。DVD VIDEO の再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO 再生ソフト

DVD VIDEO の再生には、「WinDVD」を使用します。
WinDVD は、次の場所から起動します。

[スタート] – [すべてのプログラム] – [sMedio] – [sMedio WinDVD]

WinDVD の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。[F1] を押すとヘルプが表示されます。



HDCP 非対応の外付けディスプレイにデジタル接続した場合、DVD VIDEO の再生はできません。

DVD VIDEO 再生時の不具合

WinDVD で DVD VIDEO の再生をすると、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEO の再生ができないことがあります。
DVD VIDEO の再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.50 「表示に関する各種設定」

CPRM で著作権保護されたメディアを再生するには

WinDVD は CPRM で著作権保護されたメディア再生に対応していますが、再生時に必要な「CPRM Pack」がインストールされていません。

インターネットに接続後、「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストールを行ってください。

「CPRM Pack」のダウンロードとインストール

「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストール方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] – [すべてのプログラム] – [sMedio] – [sMedio WinDVD] をクリックし、WinDVDを起動します。
- 2** CPRM で著作権保護されたメディアを光ディスクドライブにセットします。
- 3** 「このディスクには CPRM 著作権保護のかかったタイトルが含まれています・・・」と表示されたら、内容を確認して[OK] をクリックします。
- 4** 「コーレル CPRM Pack ダウンロード用登録ページへようこそ」と表示されたら、画面の指示に従って、登録を行います。
登録が完了すると、ダウンロードページが表示されます。

- 5** ダウンロードページが表示されたら、画面の指示に従って、「CPRM Pack」のダウンロードとインストールを実行します。

インストールが完了すると、CPRM で著作権保護されたメディアの再生が可能になります。



制限

CPRM で著作権保護されたメディアを再生する場合は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンしてください。

WinDVD ユーザーサポート情報

WinDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

※下記の情報は、予告なく変更される場合があります。

sMedio テクニカルサポート、WinDVD サポート窓口

電話 : 03-5299-0030

メール : support@smedio.co.jp

営業時間 : 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:30～17:30
(祝日、年末年始および sMedio 社指定休業日を除く)

サポートページ : <http://www.smedio.co.jp/support/>

光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

使用可能なメディアについては、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブ取扱説明書」



制限

作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 12 Essentials」が添付されています。

p.40 「Nero 12 Essentials の使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- 省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.68 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- 速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」

Nero 12 Essentialsの使い方

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

ライティングソフト「Nero 12 Essentials」を使用すると、CD メディアや DVD メディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



制限

「Nero 12 Essentials」と Windows 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

書き込みは「Nero Express」で行います。

Nero Express は次の場所から起動します。



【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「Nero」 - 「Nero 12」 - 「Nero Express」

Nero Express の詳しい使用方は、ヘルプをご覧ください。

Nero 12 Essentials ユーザーサポート情報

Nero 12 Essentials のサポートについて説明します。

Nero 12 Essentials の操作などでお困りの場合は、ホームページのサポート情報をご覧ください。

※下記の情報は、予告なく変更される場合があります。

ホームページ: <http://www.nero.com/jpn/support/contact>

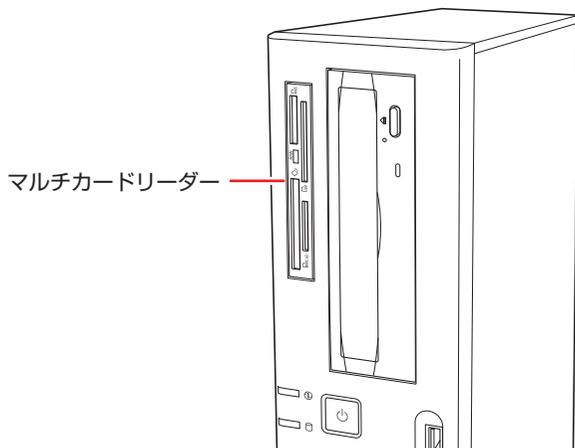
E-MAIL : 上記ホームページのサポートページからお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、コンピューターの機種名をお知らせいただく必要があります。

メモリーカードを使う

マルチカードリーダー搭載時

購入時にオプション選択された場合、メモリーカードを使用するためのマルチカードリーダーが搭載されています。

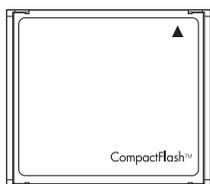


使用可能なメモリーカード

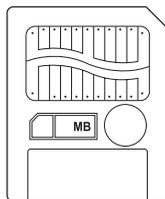
本機で使用できるメモリーカードは次の5種類です。

※ イラストは各メモリーカードのイメージです。

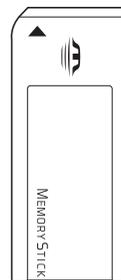
※ 記載は対応規格であり、すべてのカードでの動作を保証するものではありません。



<コンパクトフラッシュ>



<スマートメディア>



<メモリースティック>
※ PRO/PRO-HG/XC 対応



<SDメモリーカード>
※ SDHC/SDXC 対応



<マルチメディアカード>

制限

<コンパクトフラッシュ>

- UDMA および Type1 に対応しています。
- モデム、LAN、PHS カードなどの I/O カードは使用できません。

<SD メモリー カード>

- Secure Digital 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- SD I/O カードおよび SD Combo カードは使用できません。

<スマートメディア>

- 3.3V タイプ (3V と表示されているのも可) のみサポートしています。5V タイプのカードは使用できません。
- ID 付きも使用できますが、ID 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- ROM カードには対応していません。

<メモリースティック>

- マジックゲート付き (白色) も使用できますが、マジックゲート機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- メモリー以外の I/O カード (GPS 用など) は使用できません。
- メモリースティックおよびメモリースティック PRO の高速転送、セキュリティー機能には対応していません。

<マルチメディアカード>

- Keitai-de-Music 対応カードも使用できますが、Keitai-de-Music 機能 (UDAC-MB プロトコル) には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- 読み取り速度や書き込み速度が、ほかのカードに比べて遅くなります。これはカードの規格による制限です。

メモリーカード使用時の注意

メモリーカードは、次の点に注意して正しく使用してください。

- マルチカードリーダーアクセスランプ点滅中にメモリーカードを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。メモリーカード内のデータが破損するおそれがあります。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- データの書き込み途中で電力の供給が停止すると、メモリーカードに不具合が発生する可能性があります。メモリーカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.68 「時間経過で移行させない」

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードのフォーマットは、必ずメモリーカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリーカードが認識されなくなる場合があります。

フォーマットの方法は、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

メモリーカードのセットと取り出し

メモリーカードのセットと取り出し方法について説明します。

メモリーカードのセット

メモリーカードのセット方法は次のとおりです。

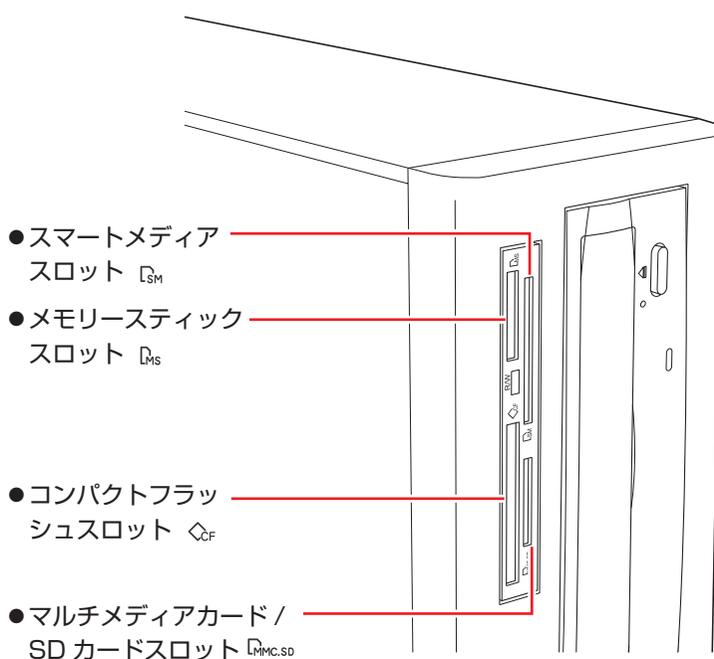


制限

本機にメモリーカードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモリーカードはWindows 起動後にセットしてください。

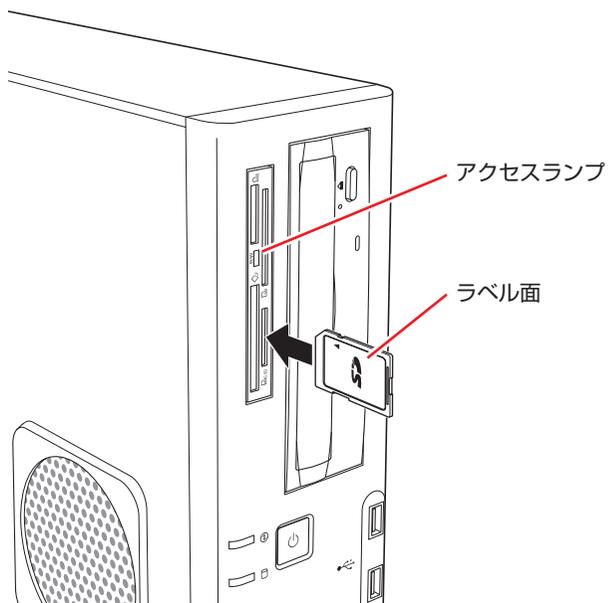
1

使用するメモリーカードのスロット位置を確認します。



2 メモリーカードのラベル面を左側（端子面を右側）に向け、対応するスロットにカードを差し込みます。

正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。



メモリーカードは、正しくセットされていてもスロットから数 cm 出たままのものもあります。

メモリーカードの取り出し

メモリーカードの取り出し方法は、次のとおりです。

1 メモリーカードの終了処理を行います。

本機の電源を切っている場合は、終了処理は不要です。**2**に進みます。

- 1 開いているファイルを閉じます。
ファイルを閉じないと、終了処理ができません。
- 2 マルチカードリーダーのアクセスランプが点滅していないことを確認してから、[スタート] - 「コンピューター」 - 「取り出すメモリーカードのアイコン」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



2 メモリーカードを取り出します。

取り出したメモリーカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

USB 機器を使う

本機には次の USB コネクタが搭載されています。

- USB2.0 コネクタ (前面× 2、背面× 2)
- USB3.0 コネクタ (背面× 2)

※ 転送速度は、本機のコネクタと接続する USB 装置の組み合わせによります。

！ 制限

• USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続していたり、USB FDD に FD がセットされている状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。

USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。

 p.108 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

• 接続した USB 機器によっては、本機の電源を切った状態でも、ランプが光り続けます。これは、お使いの USB 機器の仕様です。

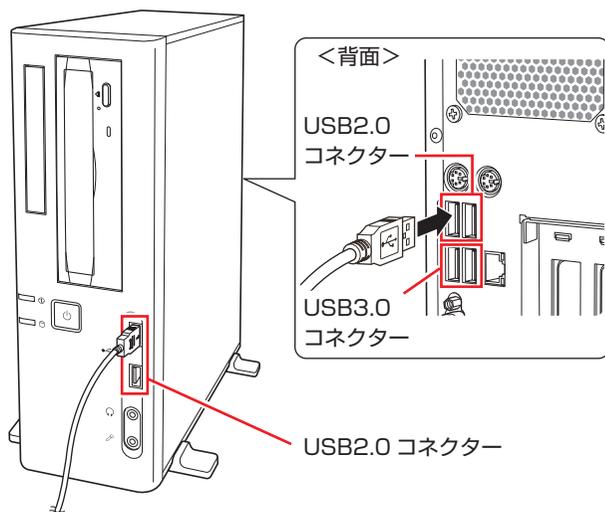
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

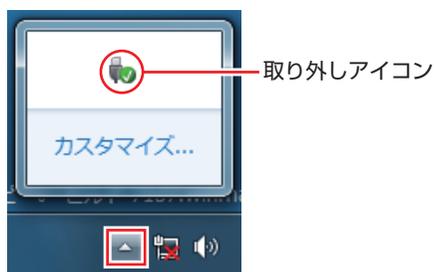
接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタ () に接続します。



- 2** USB 機器によっては、通知領域 – [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されます。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

USB 機器の取り外し

USB 機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

●そのまま取り外す

通知領域 – [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

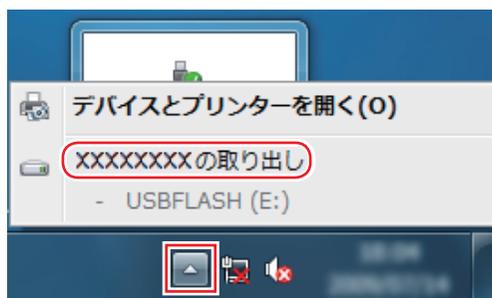
●USB 機器の終了処理をして取り外す

通知領域 – [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了方法は次のとおりです。

- 1** 「通知領域」 – [△] – 「取り外し」アイコン – 「(取り外したい USB 機器) の取り出し」をクリックします。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



- 2** 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB 機器を本機から取り外します。

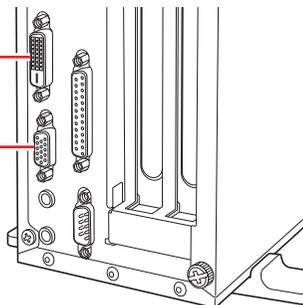
画面表示機能

本機のマザーボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

ディスプレイの接続

本機には、VGA コネクターと DVI-D コネクターの 2 つのコネクターが搭載されており、ディスプレイを 2 台接続することができます。

- DVI-D コネクター 
- VGA コネクター 



接続方法の種類

ディスプレイの接続方法には、次の 2 つがあります。

接続方法	コネクター
デジタル接続	DVI-D コネクター
アナログ接続	VGA コネクター

ディスプレイの接続方法

ディスプレイの接続方法は、『スタートアップガイド』－「コンピューターを設置する」をご覧ください。

表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

●解像度 ピクセル（横×縦）

800 × 600

1024 × 768

1280 × 720*

1280 × 768*

1280 × 1024

1360 × 768 *

1366 × 768 *

1400 × 1050

1440 × 900 *

1600 × 900 *

1600 × 1200

1680 × 1050 *

1920 × 1080 *

1920 × 1200 *

* ワイド表示

●表示色

中（16ビット） / 最高（32ビット）

！ 制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。接続するディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- ディスプレイを2台接続してクローン（ミラー）表示した場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピューター側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

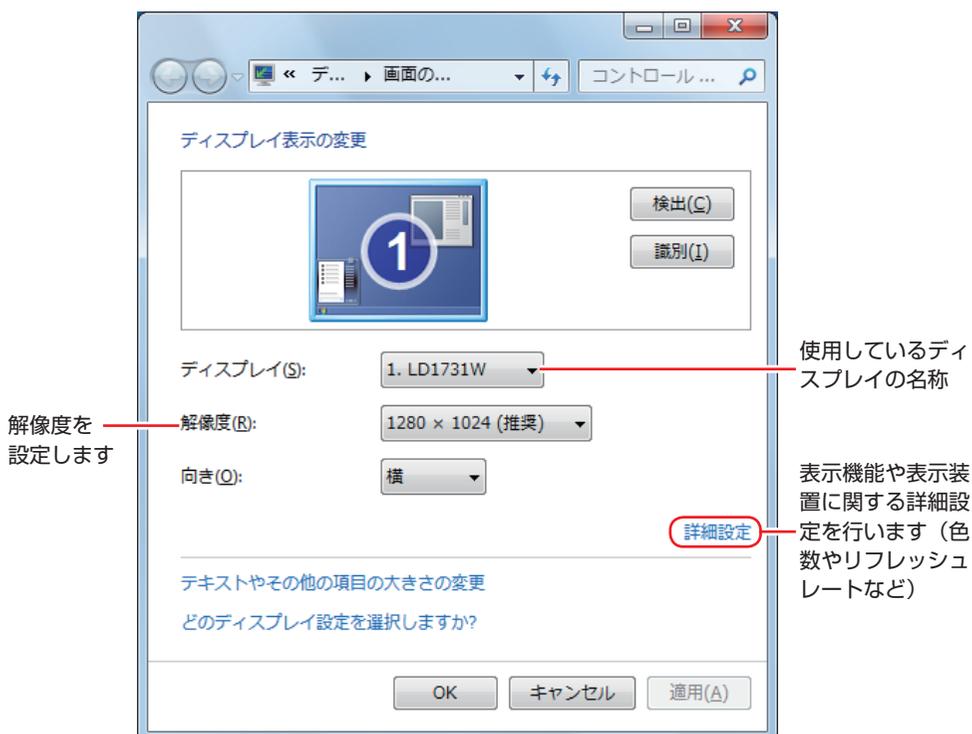
表示に関する各種設定

表示に関する設定方法について説明します。

画面の設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何も無いところで右クリック→「画面の解像度」



画面表示の種類

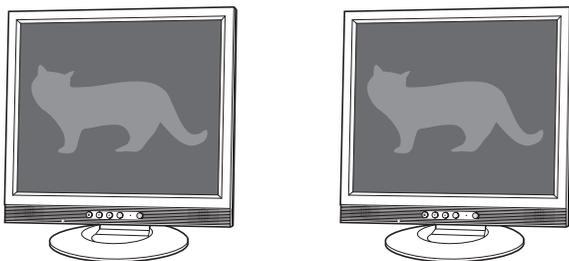
本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

- シングルディスプレイ

1つのディスプレイに表示します。

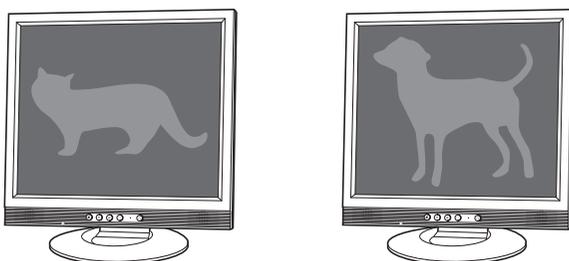
- クローン

2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。



- 拡張デスクトップ

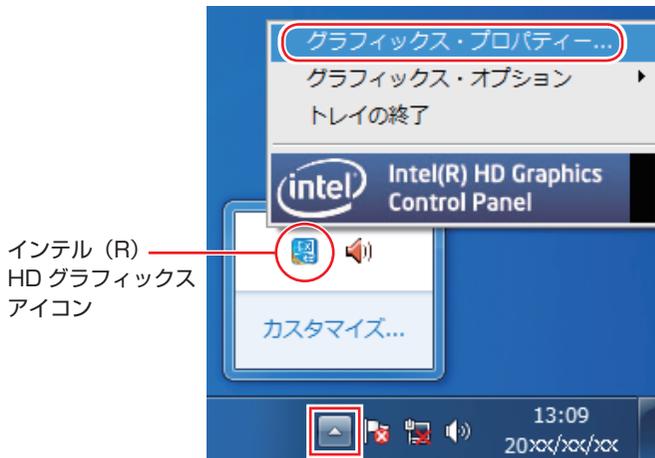
2つのディスプレイに対して、個別に設定をすることができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。



画面表示の切り替え方法

本機に2つのディスプレイを接続して、画面表示の設定を切り替える方法は、次のとおりです。

- 1 「通知領域」 – [△] – 「インテル (R) HD グラフィックス」 アイコンをクリックし、「グラフィックス・プロパティ…」を選択します。

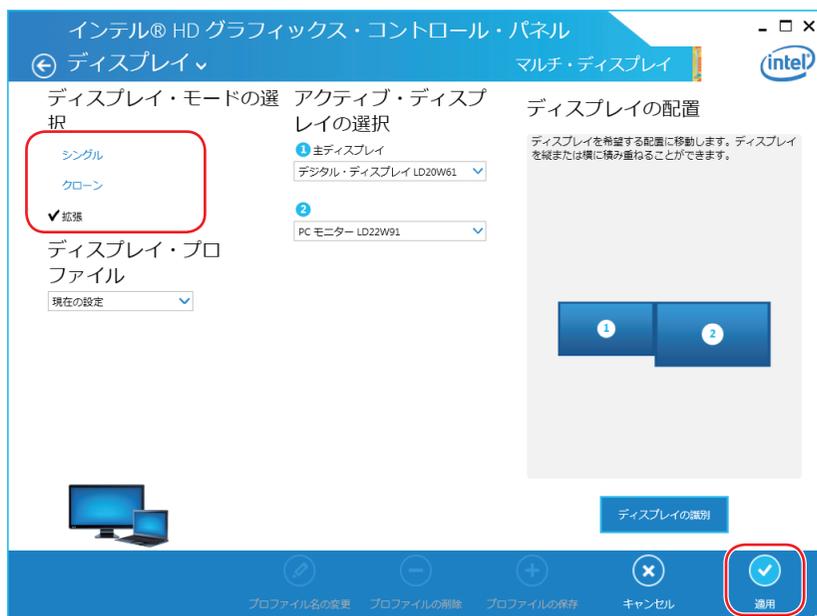


- 2 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」画面が表示されたら、「ディスプレイ」を選択します。

- 3 「ディスプレイ」タブをクリックして、表示された一覧から「マルチ・ディスプレイ」を選択します。



- 4** 「ディスプレイ・モードの選択」でモードを選択し、「適用」をクリックします。
「拡張」を選択した場合は、「①主ディスプレイ」や「②」のディスプレイを設定します。主ディスプレイに「スタート」メニューやタスクバーが表示されます。



- 5** 「新しい設定が適用されました。これらの設定を保持しますか？」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで画面の切り替えは完了です。

- 6** 設定した内容をディスプレイ・プロファイルとして保存する場合は、「プロファイルの保存」をクリックして、表示された画面にプロファイル名を入力し、[OK] をクリックします。



参考

グラフィックオプションから設定する

ディスプレイの表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

「通知領域」 - [△] - 「Intel (R) HD グラフィックス」アイコンをクリック - 「グラフィックス・オプション」 - 「出力先」

サウンド機能

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。

内蔵モノラルスピーカー

本機には、モノラルスピーカーが内蔵されており、外部スピーカーを接続しなくても、音声を出力することができます。



制限

本機のスピーカーから、特定の周波数が継続する音源（警告音やテスト信号音など）を大音量で再生した場合、誤動作や故障の原因となることがあります。



参考

ヘッドホンや外部スピーカーの接続

ヘッドホン出力コネクタやライン出力コネクタにヘッドホンや外部スピーカーを接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカーの機能は自動的に無効になります。

オーディオ機器の接続

本機の前面と背面には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。



注意

ヘッドホンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

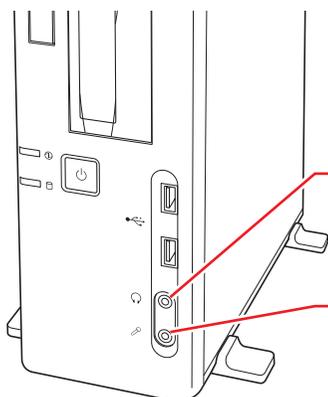


参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

前面側

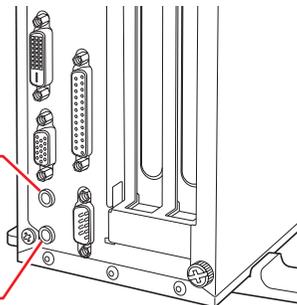


●ヘッドホン出力コネクタ 
スピーカーやヘッドホンを接続して音声を出力します。

●マイク入力コネクタ 
マイクを接続して音声を入力します。

背面側

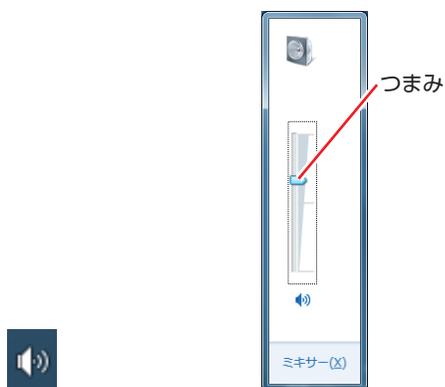
- **ライン入力コネクタ** 
オーディオ機器を接続して音声を入力します。
- **ライン出力コネクタ** 
スピーカーやヘッドホンを接続して音声を出力します。



音量の調節

Windows 起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン(白色)をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカーアイコン> <ボリュームコントロール>

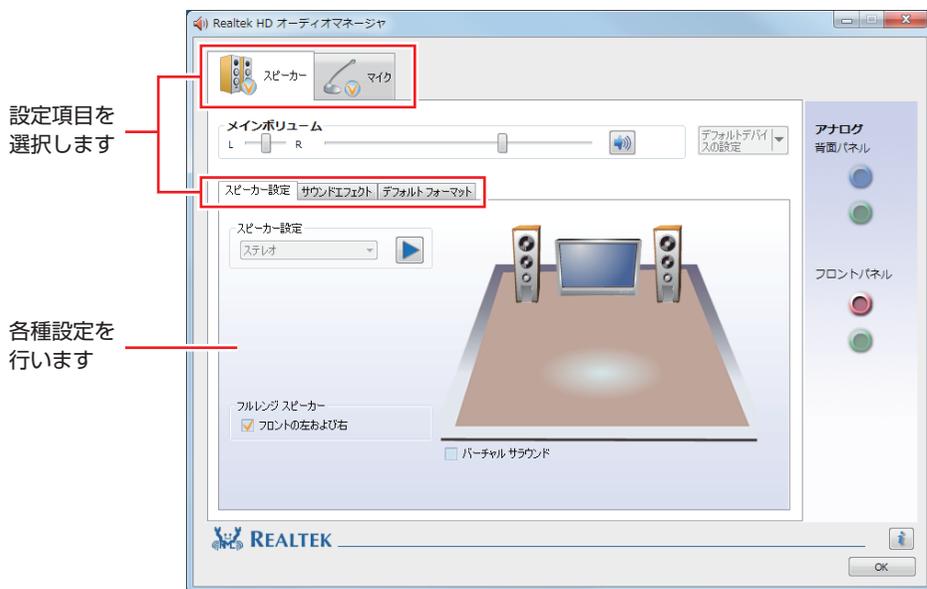
サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域 - [△] 内の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。



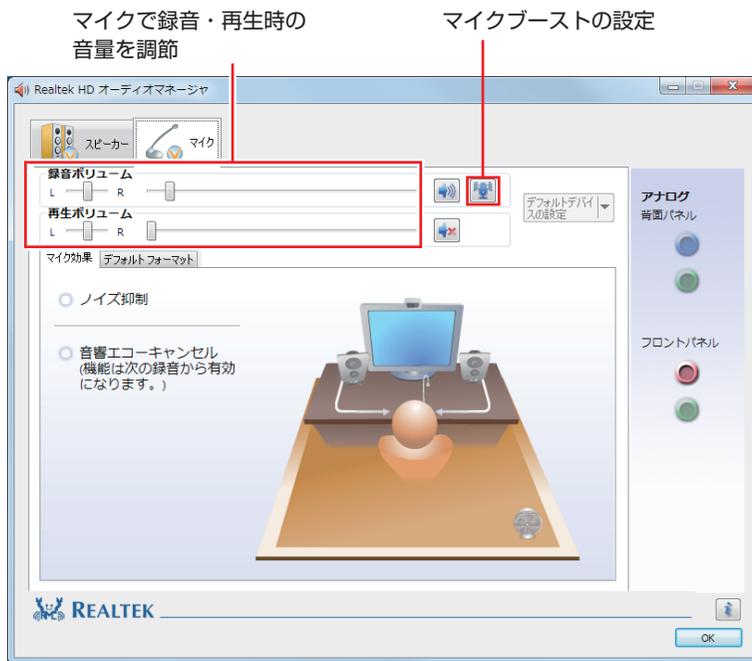
次の画面が表示されます。



※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。



※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

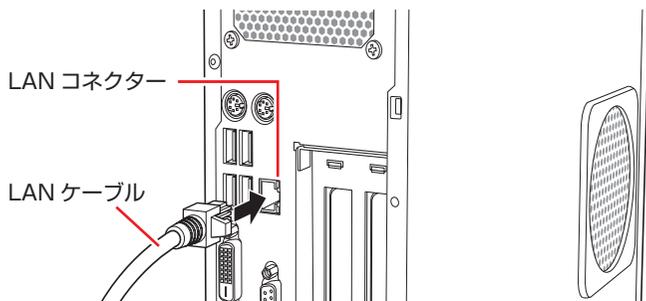
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、 をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

ネットワーク機能

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN 機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面の LAN コネクタ（品）に市販の LAN ケーブルを接続します。



ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.68 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへの接続は、プロバイダーから提供されたマニュアルを参照して行ってください。

※ 外部ネットワークに接続する際は、電気通信事業法に基づく認証機器に接続してください。

そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次の機能を使用できます。

- Wakeup On LAN  p.59
- リモートブート  p.61

Wakeup On LAN

Wakeup On LAN を使用すると、シャットダウン状態やスリープ状態、休止状態のときに、ネットワークからの信号により本機を起動することができます。

シャットダウン状態から起動させる場合



制限

シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

シャットダウン状態から Wakeup On LAN を行う場合は、次の作業が必要です。

- UEFI の設定変更
- ネットワークアダプターの設定確認

UEFI の設定変更

「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PCIE Devices」：[Enabled]（有効）

 p.98 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.114 「Power メニュー画面」

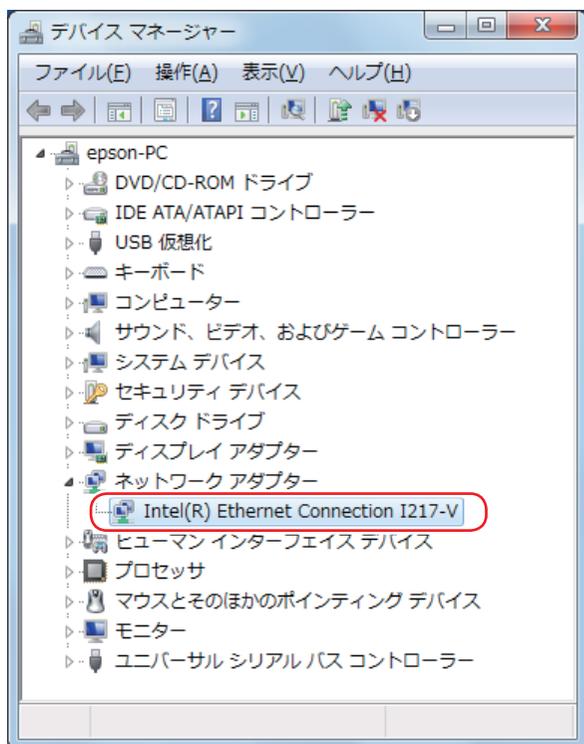
ネットワークアダプターの設定確認

ネットワークアダプターの設定を変更する方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート]－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「デバイスマネージャー」をクリックします。



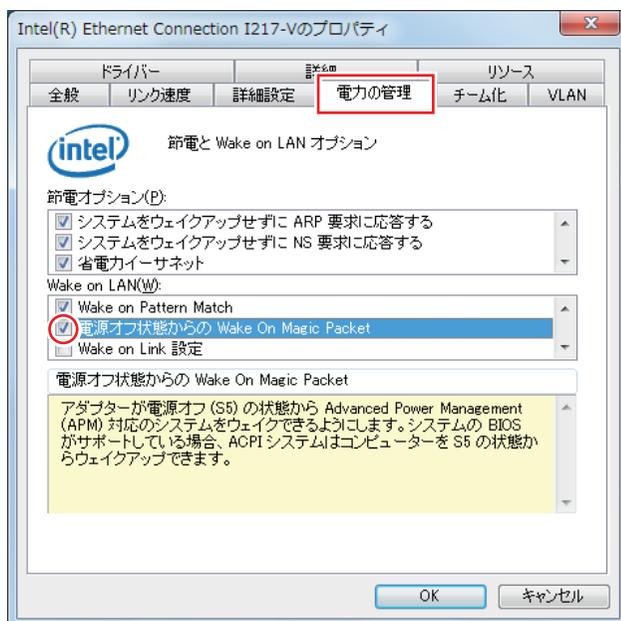
- 2** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Intel(R) Ethernet Connection I217-V」をダブルクリックします。



<イメージ>

- 3** 表示された「Intel(R) Ethernet Connection I217-Vのプロパティ」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 4** 「電源オフ状態からの Wake On Magic Packet」にチェックが入っていることを確認します。



5  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

これで、設定の確認は完了です。



参考

Wakeup On LAN を設定している場合

UEFI の設定で、Wake On LAN が有効（「Power On By PCIE Devices」が [Enabled]）に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

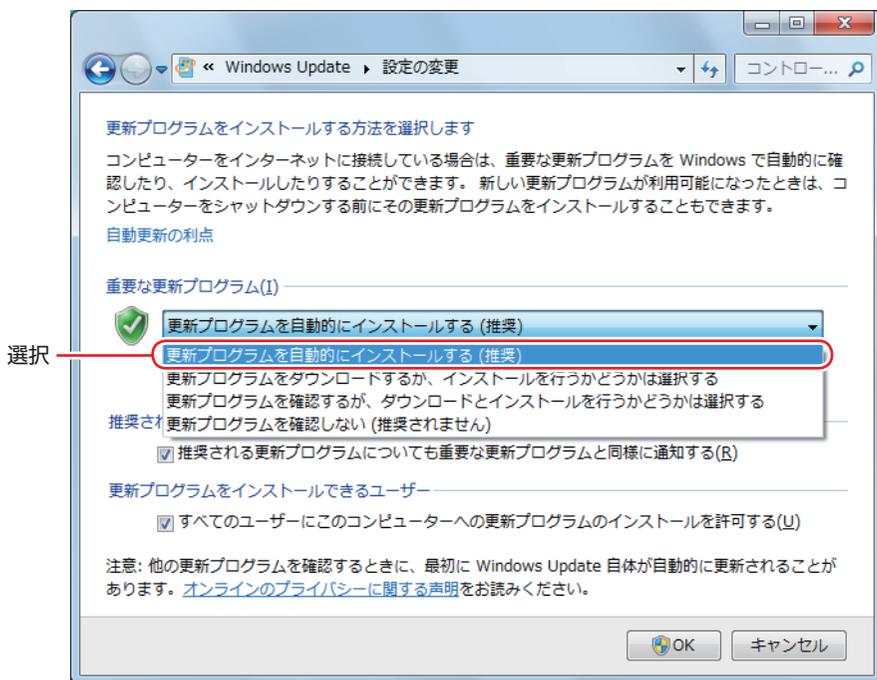
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windows のセットアップ中に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Update」 - 「設定の変更」



セキュリティソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティソフトウェアを必ず使用してください。

ウイルスバスター クラウド 90 日版を使う

本機には、セキュリティソフトウェアとして、「ウイルスバスター クラウド 90 日版」が添付されています。

ウイルスバスター クラウド 90 日版のインストール

購入時、ウイルスバスター クラウド 90 日版はインストールされていません。

インストールは、Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」から行います。ツールは次の場所から起動することができます。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【初期設定ツール】

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 p.131 「ドライバー / ソフトウェアのインストール」

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、ウイルスバスター クラウド 90 日版をインストールしないでください。

ウイルスバスター クラウド 90 日版の使用方法

ウイルスバスター クラウド 90 日版は、デスクトップの「ウイルスバスター クラウド」アイコンから起動します。



<ウイルスバスター クラウドアイコン>

使用方法は、「ヘルプ」をご覧ください。



ウイルスバスター クラウド 90 日版を一時的に無効にするには

お使いのソフトウェアなどで、ウイルスバスター クラウド 90 日版を「無効」にするよう指示があった場合は、一時的にウイルスバスター クラウド 90 日版の機能を「無効」にします。機能を「無効」にすると、セキュリティが確保されなくなります。安全を十分に確認した上で設定し、作業が終わったら、必ず「有効」に戻してください。

ウイルスバスター クラウド 90 日版のアンインストール

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合や、お使いのソフトウェアなどで指示があった場合には、ウイルスバスター クラウド 90 日版をアンインストールします。アンインストール方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「プログラムのアンインストール」をクリックします。
- 2** 「プログラムのアンインストールまたは変更」と表示されたら、「ウイルスバスタークラウド」を選択して「アンインストール」をクリックします。
以降は画面の指示に従ってアンインストールを行ってください。

90 日の期限が来たら

本機に添付のウイルスバスター クラウドには、一定の有効期間（製品使用開始から 90 日間）が設定されています。

有効期限が切れた場合は、定義ファイルの更新やソフトウェアの自動バージョンアップが行われなくなるため、最新のウイルスやスパイウェアなどの脅威に対応することができなくなり、大変危険です。

90 日の期限が切れた場合は、使用を継続するための更新手続きを行うことをおすすめします。更新は有償になります。更新手続きを行うことにより、最新の脅威に対応できるようになります。

ウイルスバスター クラウド 90 日版の再インストール

Windows の再インストールをしたら、ウイルスバスター クラウド 90 日版をインストールします。インストール方法は、 p.131「ドライバー/ソフトウェアのインストール」をご覧ください。

ウイルスバスター クラウド 90 日版のサポート

正しく動作しない場合など、ウイルスバスター クラウド 90 日版に関するご相談については、下記へお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

● 電話でのお問い合わせ 受付時間 365 日（年中無休）9:30 ～ 17:30

1. 操作、障害などのお問い合わせ

（インストール/バージョンアップ操作、設定方法、ウイルス、各種トラブル）

0570-019-610

2. ユーザー登録、契約更新のお問い合わせ

（契約更新、入金情報、ユーザー登録情報の確認や変更）

0570-064566

※ 一部の IP（光）電話や PHS、海外からの発信など、ナビダイヤルをご利用になれない場合はこちらの番号におかけください。03-6738-6063

※ 通話料金はお客さまのご負担となります。

※ 番号のおかけ間違いにご注意ください。

● メールでのお問い合わせ 受付時間 365 日（年中無休）24 時間

以下の各種お問い合わせフォームよりお問い合わせください。

- 操作・設定・トラブル バージョンアップ、操作、設定方法、各種トラブル、エラーに関するお問い合わせ

<https://esupport.trendmicro.com/submitcaseonline/consumer/srf-ts-step1.aspx>

- ウイルス検出・駆除 ウイルス検出や駆除方法、その他ウイルス情報に関するお問い合わせ

<https://esupport.trendmicro.com/submitcaseonline/consumer/srf-ve-step1.aspx>

- 契約更新・登録情報 契約更新、入金情報、ユーザー登録情報の確認や変更に関するお問い合わせ

<https://esupport.trendmicro.com/submitcaseonline/consumer/srf-cs-step1.aspx>

● チャットでのお問い合わせ 受付時間 365 日（年中無休）9:00 ～ 21:00

以下のチャットお問い合わせフォームよりお問い合わせください。

- チャットお問い合わせフォーム

<https://esupport.trendmicro.com/jpprechatform/consumer/chatlogin.aspx>

● トレンドマイクロサポート WEB

<http://tmqa.jp/vbtop/>

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、ウイルスバスター クラウド 90 日版をアンインストール（削除）してください。

 p.64「ウイルスバスター クラウド 90 日版のアンインストール」

Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

購入時、i-フィルター 30 日版はインストールされていません。Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。ツールは次の場所から起動することができます。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 p.131 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」

市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版の申し込み

i-フィルター 30 日版を使用するには、申し込みが必要です。申し込みはインターネットに接続した状態で行います。次の場所から i-フィルター 30 日版を起動し、表示された画面の指示に従って、申し込みを行ってください。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「i-フィルター 6.0」



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティーソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版のサポート

i-フィルター 30 日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。なお、この情報は、予告なく変更される場合があります。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能

ここでは、本機の省電力状態について説明します。

省電力状態

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.68 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ メモリーカードや外部接続記憶装置（USB HDD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能を使っでの通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 -  p.68 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る

省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- スリープ

作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

- 休止状態

作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

省電力状態に移行する方法

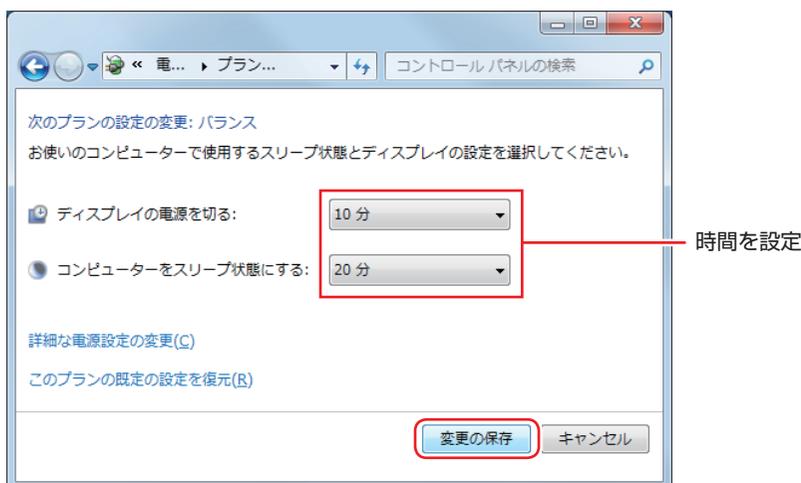
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「電源オプション」 - 各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアなどに書き込みを行う場合は、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
[スタート] - [▷] から項目を選択する	スリープ、休止状態*

* 購入時は表示されません。表示させるには、次の設定を行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「電源オプション」 - 「プラン設定の変更」 - 「詳細な電源設定の変更」 - 「スリープ」 - 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ (🔦) で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯 (緑色)
ディスプレイの電源切	点灯 (緑色)
スリープ	点灯 (オレンジ色)
休止状態	消灯
シャットダウン (電源切)	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯 (緑色)	マウスやキーボードを操作する
スリープ	点灯 (オレンジ色)	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● USB キーボードを操作する● USB マウスでクリックする● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す

Endeavor 電源プラン設定ツール

本機には節電設定を行うための「Endeavor 電源プラン設定ツール」が添付されています。Endeavor 電源プラン設定ツールでは、3つのおすすめ電源プランや、お客様ご自身で新規に作成するプランの中から、使い方に合った節電プランを設定することができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－画面下 [ユーザーサポート] － FAQ 番号：21091

インストール

Endeavor 電源プラン設定ツールを使用するには、インストールが必要です。購入時は、Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。初期設定ツールは次の場所から起動することができます。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

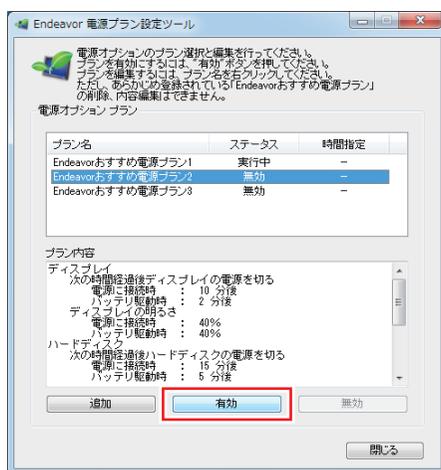
 p.131 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」

プランの変更方法

Endeavor 電源プラン設定ツールをインストールすると、「Endeavor おすすめ電源プラン1」が有効になります。必要に応じて、「Endeavor 電源プラン設定ツール」画面で設定を変更してください。

変更方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート]－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「Endeavor 電源プラン設定ツール」をクリックします。
- 2 変更したいプランを選んで [有効] をクリックします。



おすすめプランの内容や新規プラン作成方法は、次の場所をご覧ください。

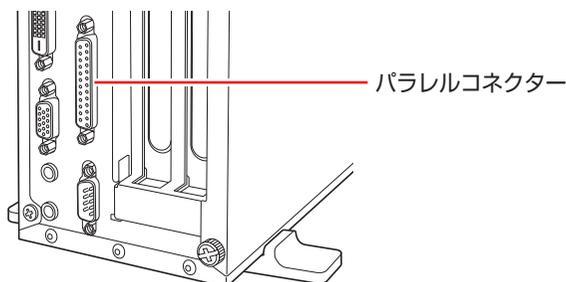


「PC お役立ちナビ」－画面下 [ユーザーサポート] － FAQ 番号：21091

その他の機能

パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタ（）が1個搭載されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンターやスキャナーなど）を接続します。



本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

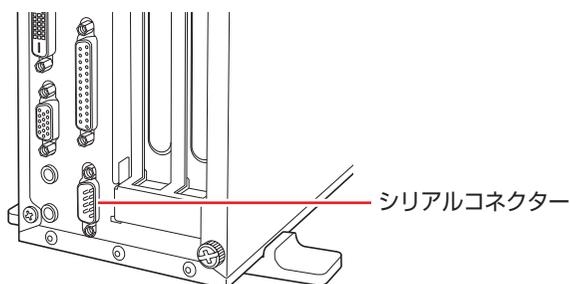
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Parallel Port Address」

 p.98 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.112 「Advanced メニュー画面」

シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタ（）が1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやターミナルアダプターなど）を接続します。



本機のシリアルポートは、COM1 に設定されています。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。

通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

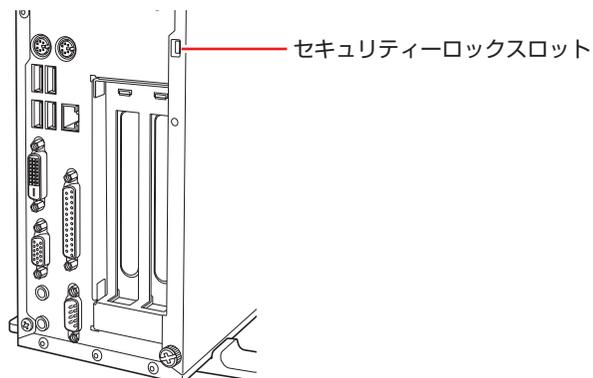
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Serial Port1」

 p.98 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.112 「Advanced メニュー画面」

セキュリティーロックスロット

本機背面には、「セキュリティーロックスロット」が搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

2

装置の増設・交換

メモリーや拡張ボード、HDD の増設・交換方法について説明します。

増設・交換できる装置	74
作業時の注意	75
装置装着時の作業	76
メモリーの装着	79
拡張ボードの装着	84
HDD の装着	89

増設・交換できる装置

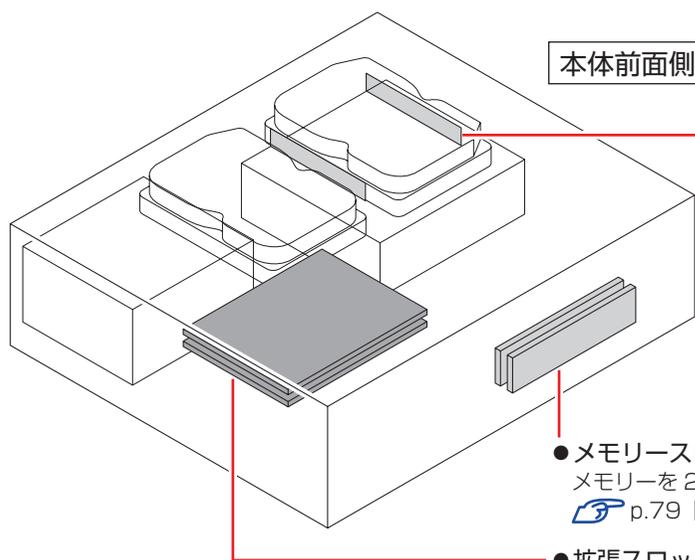
本機に装着できる装置について説明します。

購入時の選択によっては、いくつかの装置がすでに装着されているため、増設できる装置の数は異なります。



制限

マニュアルで方法を記載していない装置の増設・交換は行わないでください。
故障の原因となります。



本体前面側

- HDD 増設用ブラケット
HDD を 1 台装着できます。
 p.89 「HDD の装着」
※ マルチカードリーダーが装着されている場合、HDD は増設できません。

- メモリスロット
メモリーを 2 枚装着できます。
 p.79 「メモリーの装着」

- 拡張スロット
拡張ボードを 2 枚装着できます。
 p.84 「拡張ボードの装着」

アップグレードサービス

当社では、コンピューター本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

アップグレードサービスの最新情報は、当社サポートページでご確認ください。

<http://www.epsondirect.co.jp/support/afterservice/upgrade/index.asp>



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - 「アフターサービス」項目の「ハードウェアアップグレード」

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。
カスタマーサービスセンターの連絡先は、 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- メモリーの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置のマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリーや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 固定具が確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。再度、メモリーの向きを確認し、固定具が確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

装置装着時の作業

装置の装着を行う場合は次の作業が必要です。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

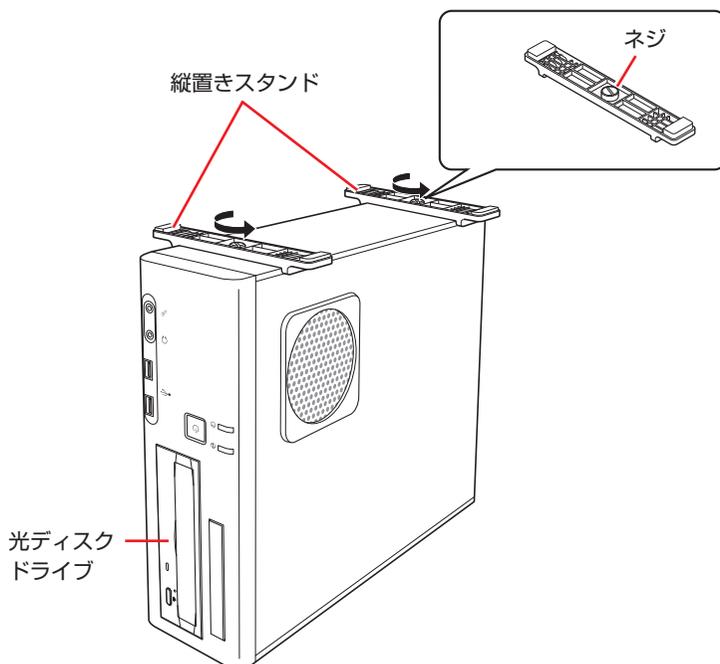
本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

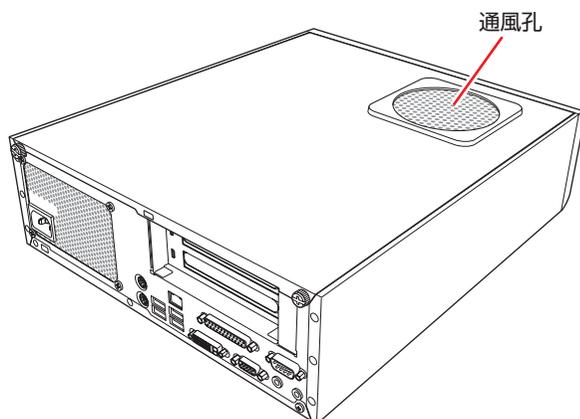
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

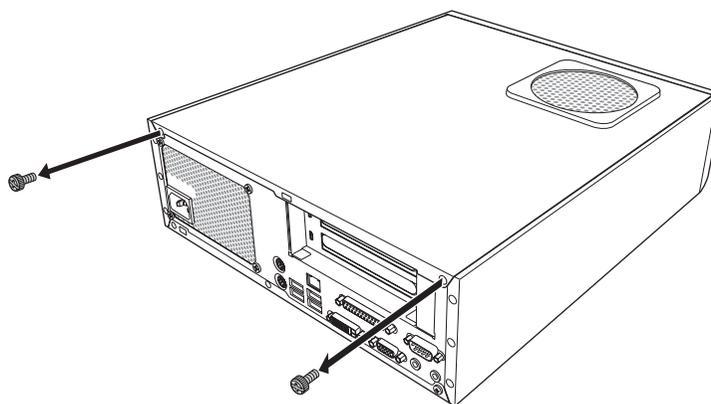
- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本機を縦置きで使用している場合は、光ディスクドライブを下にして置き、ネジをゆるめて縦置きスタンドを取り外します。



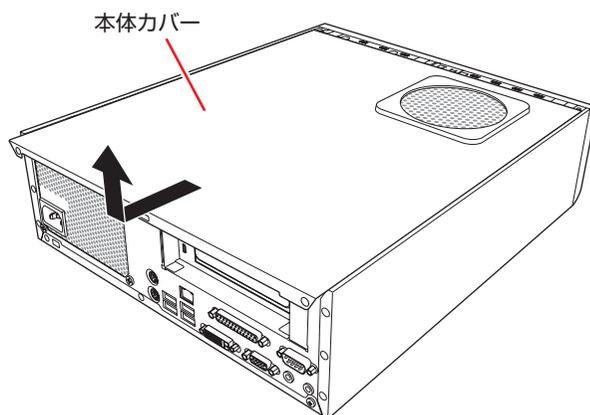
- 4** 通風孔がある側面が上になるように、本体を横置きします。



- 5** 本機背面のネジ（2本）を外します。



- 6** 本体カバーを背面側にスライドさせ、上へ持ち上げて取り外します。

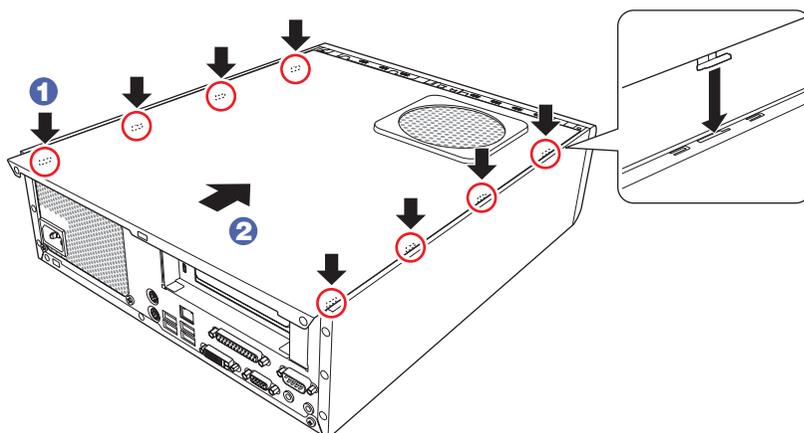


取り付け

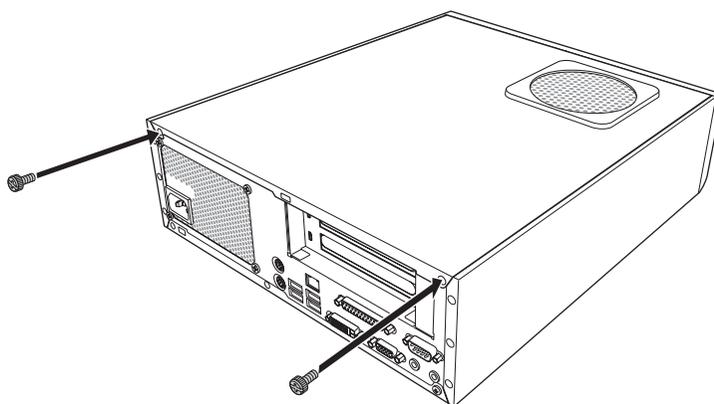
本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

1 本体カバーを取り付けます。

- 1 本体カバーのツメ（上下で8箇所）を、本体の穴にはめ込みます。
- 2 本体背面から前側に向けてスライドします。



2 ネジ（2本）で本機背面と本体カバーを固定します。



3 縦置きで使用する場合は、光ディスクドライブを下にして、縦置きスタンドを取り付けます。

縦置きスタンドを取り付けたら、スタンドを下にして置きます。

4 ケーブル類（電源コードなど）を元どおりに接続します。

これで本体カバーの取り付けは完了です。

メモリーの装着

本機で使用可能なメモリーの仕様と、メモリーの取り付け・取り外し方法について説明します。
本機にはメモリスロットが2本あり、メモリーを増設・交換することができます。

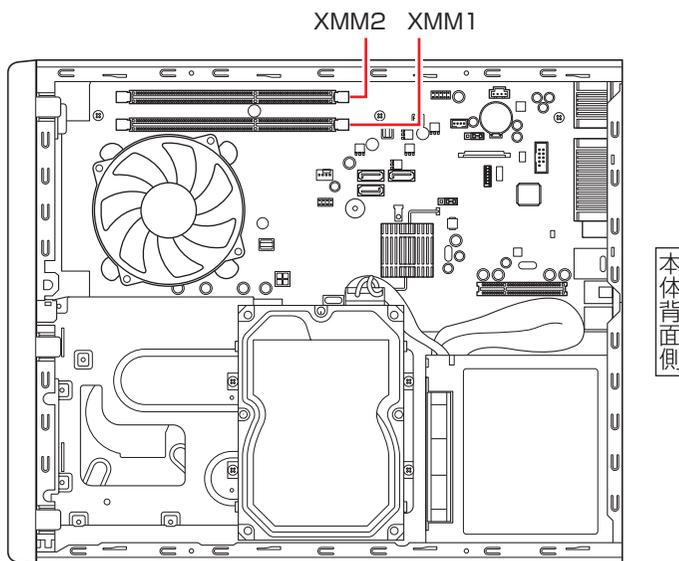
Windows 7 32bit 版：最大 4GB まで

Windows 7 64bit 版：最大 16GB まで



Windows 7 32bit 版の場合、本機に合計 3GB を超えるメモリーを搭載しても、システム上利用できるメモリーの最大容量は約 3GB までです。

マザーボード上のメモリスロットの位置は、次のとおりです。



メモリーの仕様

本機で使用可能なメモリーは、次のとおりです。

- PC3-12800 (DDR3 1600MHz SDRAM 使用)
- メモリー容量 2GB、4GB、8GB
- Non ECC
- 240 ピン
- CL=11

最新メモリー情報

今後、使用可能なメモリーが追加される場合があります。また、それにともない、最大搭載可能容量が変更になることがあります。

メモリーの最新情報は、当社ホームページや FAQ でご確認ください。

<http://shop.epson.jp/>



「PC お役立ちナビ」－画面下【ユーザーサポート】－FAQ 番号：27447

メモリー装着の組み合わせ

本機はデュアルチャンネルに対応しているため、同一容量のメモリーを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。

メモリー装着の組み合わせとメモリーの動作は、次のとおりです。

メモリー装着の組み合わせ	メモリーの動作
同一容量のメモリー2枚	デュアルチャンネルで動作。転送速度最大。
メモリー1枚*	通常の転送速度で動作（シングルチャンネル）。

*メモリーを1枚で装着する場合は、XMM1 スロットに装着してください。

メモリーの取り付け・取り外し

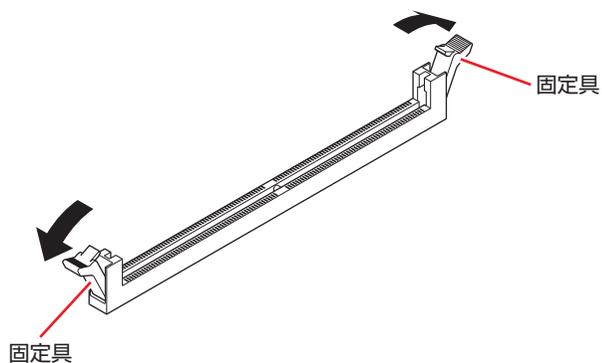
作業を始める前に  p.75 「作業時の注意」を必ずお読みください。

取り付け

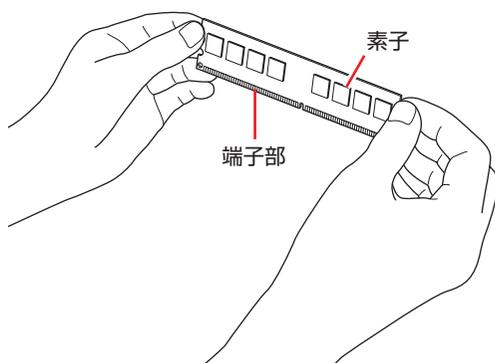
メモリーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本体カバーを取り外します。
 p.76 「取り外し」
- 2** 拡張ボードを装着していて、ボードがメモリー交換作業の妨げになる場合は、リンクカバーを取り外します。
 p.85 「取り付け」 **2**

3 メモリースロット両端の固定具を開きます。

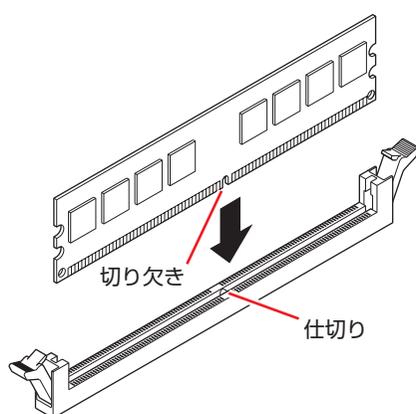


4 取り付けるメモリーを静電防止袋から取り出します。
メモリーの端子部や素子に触れないように注意します。



5 メモリースロットにメモリーを差し込みます。

- 1** メモリーの切り欠きをメモリースロット内の仕切りに合わせます。

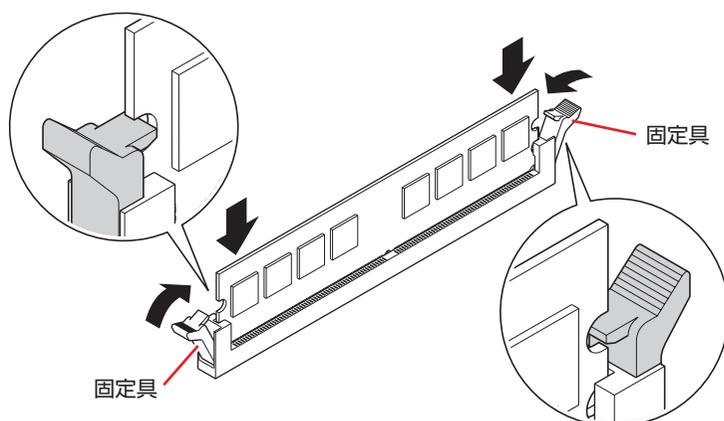


注意

メモリーの切り欠きとメモリースロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。



- 2** メモリーを押し込むと、カチッと自動的に固定具が閉じてメモリーが固定されます。
メモリスロット両端の固定具が確実に閉じて、メモリーが固定されたことを必ず確認してください。



制限

固定具が確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。
再度、メモリーの向きを確認し、固定具が確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。

- 6** **2** でリンクバーを取り外した場合は、元どおりに装着します。

 p.87 「取り付け」 **6**

- 7** 本体カバーを取り付けます。

 p.78 「取り付け」

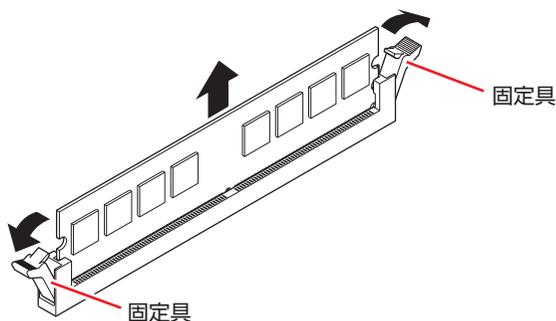
- 8** 本機の電源を入れて、メモリーの容量を確認します。

 p.83 「メモリー取り付け・取り外し後の作業」

取り外し

メモリーの取り外しは、[p.81](#)「取り付け」の **3** ~ **5** を次の手順に読み替えて行ってください。

- 1** メモリーの両端を固定している固定具を開きます。



- 2** メモリーが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。
- 3** メモリーを取り付けない場合は、固定具を閉じておきます。

メモリー取り付け・取り外し後の作業

メモリーの取り付け・取り外しをしたら、メモリーが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリー容量を確認します。

メモリー容量の確認方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が起動します。
- 2** 「Main」メニュー画面 - 「System Information」 - 「Installed Memory」に表示されているメモリー容量を確認します。
メモリー容量が正しく表示されない場合は、メモリーが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリーを正しく取り付けなおしてください。
- 3** **[F10]** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

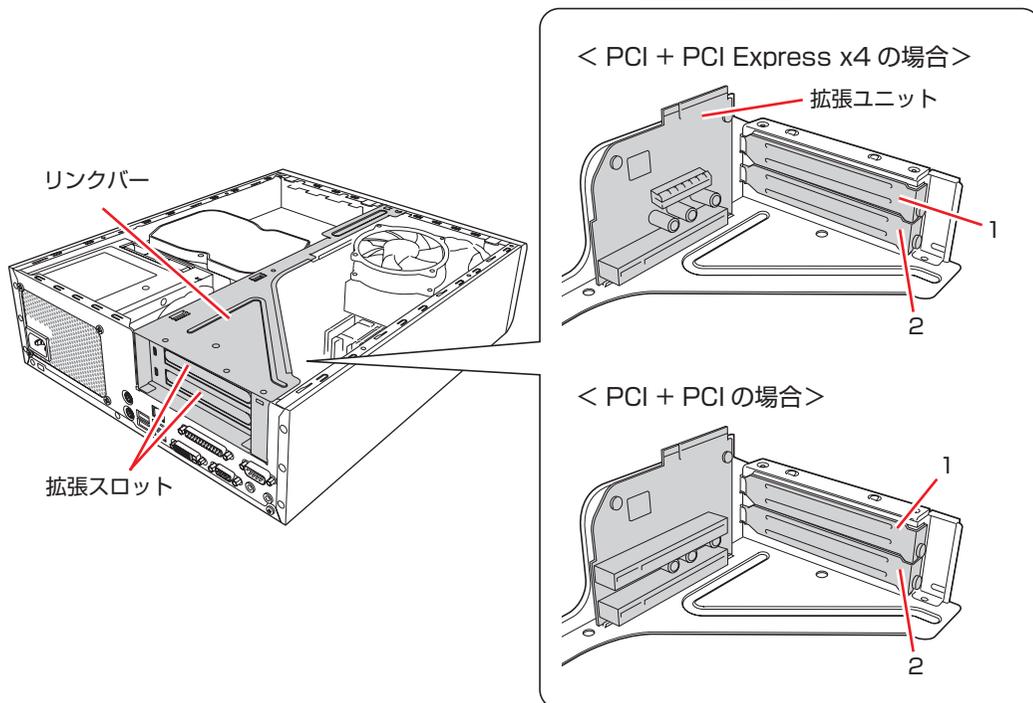
拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機のリンクバーには拡張スロットが2つあります。拡張スロットの種類は、購入時に選択された拡張ユニットによって異なります。

各拡張ユニットのスロットの仕様は次のとおりです。



PCI + PCI Express x4 拡張ユニット

拡張スロット	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
1	PCI Express x4	ボード長：178mm まで
2	PCI 2.3	

PCI + PCI 拡張ユニット

拡張スロット	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
1	PCI 2.3	ボード長：178mm まで
2		

拡張ボードの取り付け・取り外し



拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

作業を始める前に  p.75「作業時の注意」と拡張ボードのマニュアルを必ずお読みください。
※リンクバーのイラストは、PCI + PCI Express x4 拡張ユニットを搭載した状態です。

取り付け

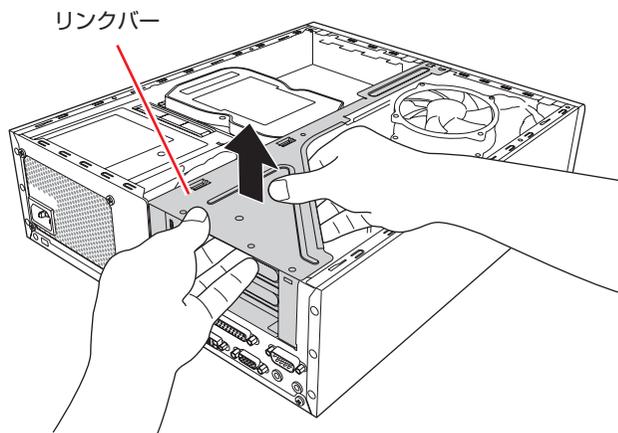
拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本体カバーを取り外します。

 p.76「取り外し」

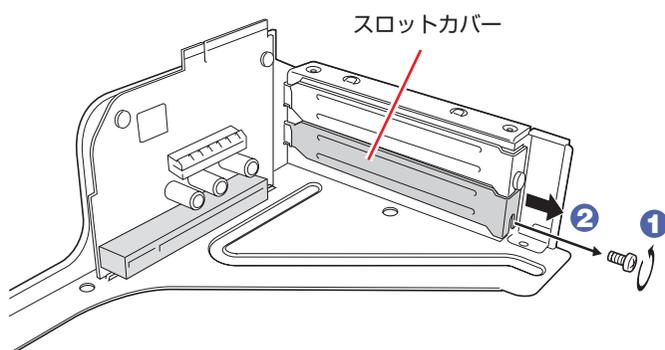
- 2** リンクバーを取り外します。

下図のとおりに手をかけて、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分で手などを切らないよう注意してください。



3 リンクバーを裏返して置き、装着するコネクタのスロットカバーを外します。

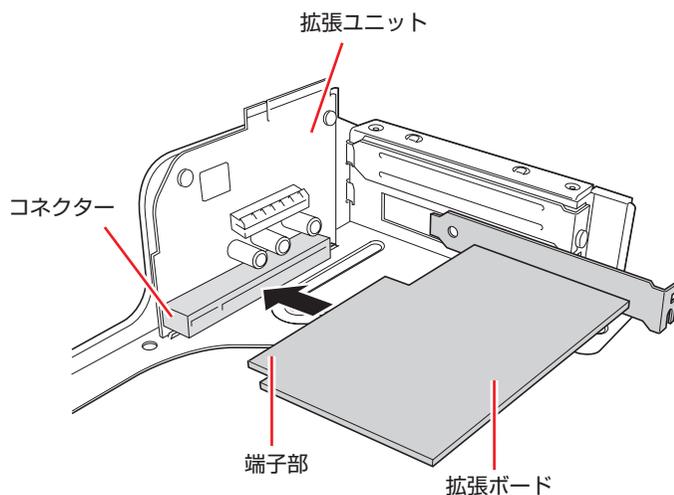
- 1 スロットカバーを固定しているネジを外します。
- 2 スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。



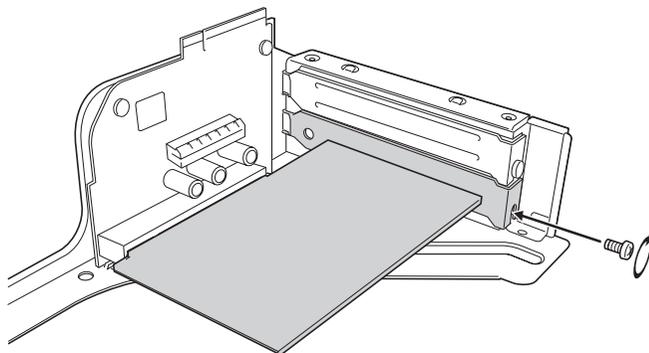
外したスロットカバーは、大切に保管してください。
拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

4 拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、拡張ユニットを手で軽く押さえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。

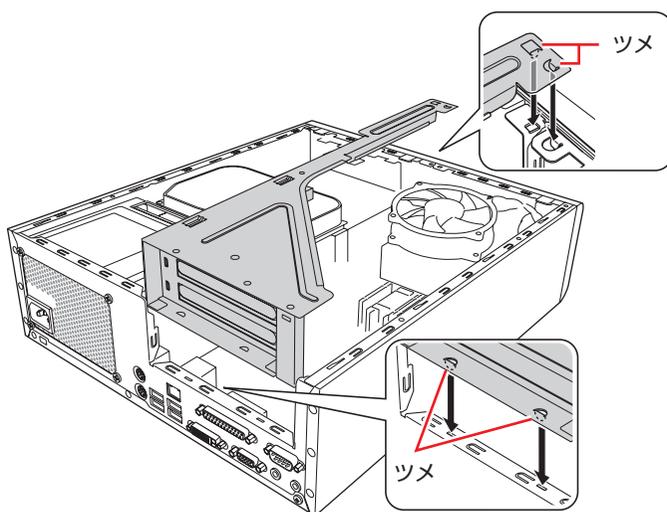


5 拡張ボードをネジで固定します。

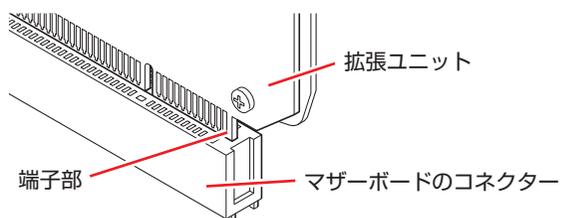


6 リンクバーを元の位置に取り付けます。

- 1 下図のとおりリンクバーと本体の位置を合わせます。
- 2 リンクバーのツメ（細い方に2箇所、太い方に2箇所）をそれぞれ本体側の穴に合わせます。



- 3 拡張ユニットの端子部分が、マザーボードのコネクターの位置にあるか確認します。



- 4 カチッと音がするまでリンクバーを押し込みます。



7 本体カバーを取り付けます。

 p.78 「取り付け」

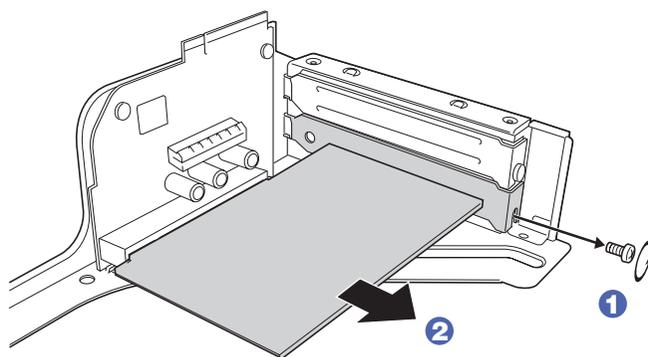
続いて、 p.88 「拡張ボード取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

拡張ボードの取り外しは、 p.86「取り付け」の **3** ~ **5** を次の手順に読み替えて行ってください。

1 リンクバーを裏返して置き、拡張ボードを取り外します。

- 1 拡張ボードを固定しているネジを外します。
- 2 拡張ボードを引き抜きます。



2 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

拡張ボード取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードによっては、作業が必要な場合があります。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。

HDD の装着

HDD の取り付け・取り外し方法について説明します。

本機には、HDD 増設用ブラケットが搭載されており、シリアル ATA 仕様の HDD を 1 台増設することができます。

※マルチカードリーダーが搭載されている場合、HDD の増設はできません。

HDD の取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.75 「作業時の注意」と、機器のマニュアルを必ずお読みください。



制限

HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD を増設してください。

 p.107 「解除方法」

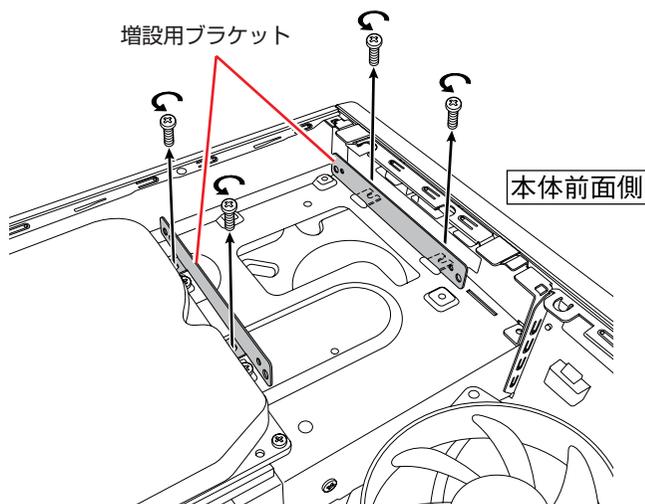
本機には、増設用ブラケットに HDD を取り付けるためのネジ（4 本）とシリアル ATA ケーブルは添付されていません。

ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 **別冊** 『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

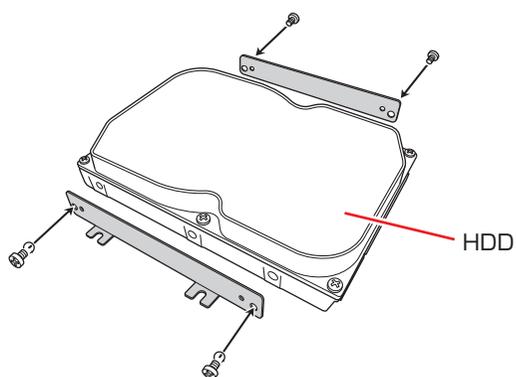
取り付け

HDD の取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本体カバーを取り外します。
 p.76 「取り外し」
- 2** リンクバーを取り外します。
 p.85 「取り付け」 **2**
- 3** ネジ（4 本）を外して、増設用ブラケットを取り外します。

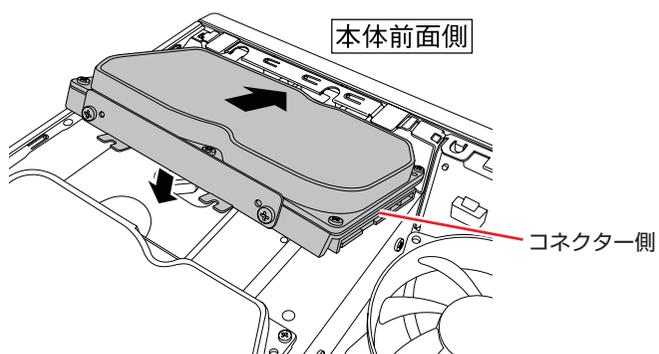


- 4** 用意した HDD に増設用ブラケットを取り付けます。
増設用ブラケットのネジ穴を HDD のネジ穴に合わせて、ネジ（4 本）で固定します。

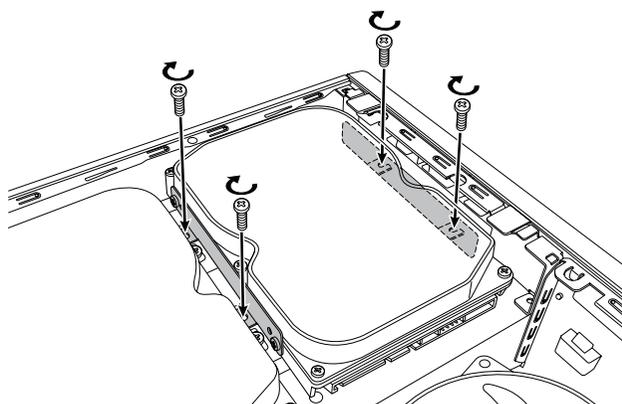


- 5** HDD を本機に取り付けます。

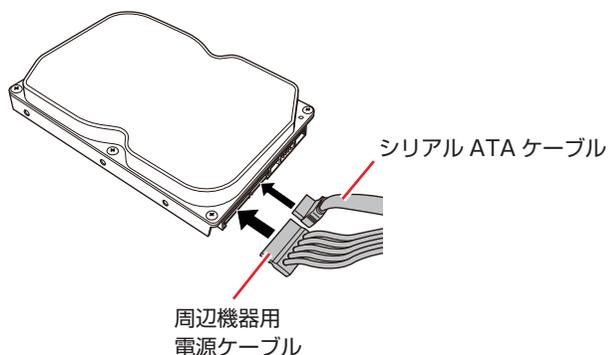
- 1** 増設用ブラケットを取り付けた HDD を本体前面側から先に入れます。



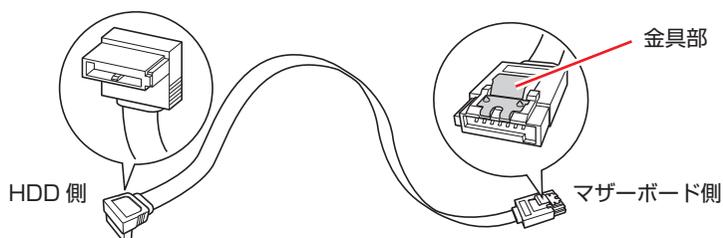
- 2** 増設用ブラケットのネジ穴を本体のネジ穴に合わせて、ネジ（4 本）で固定します。



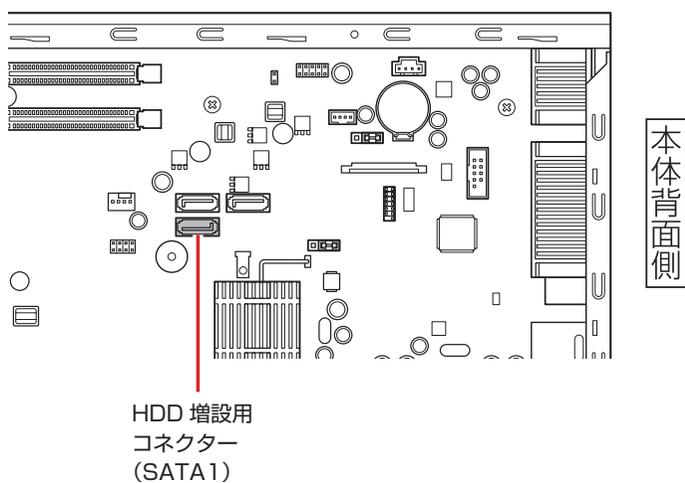
6 取り付けしたHDDに周辺機器用電源ケーブルとシリアルATAケーブルを接続します。



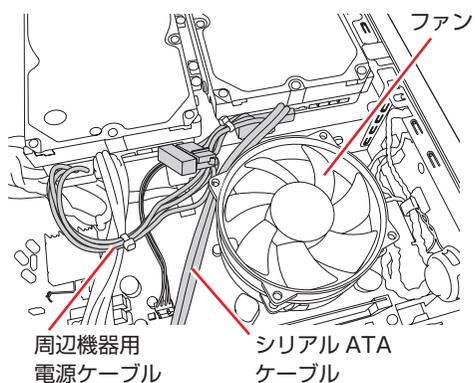
シリアルATAケーブルは、ケーブル両端の形状と各コネクターの向きを確認して接続してください。



7 HDDに取り付けたシリアルATAケーブルをマザーボードのHDD増設用コネクタに接続します。



- 8** HDD に接続した周辺機器用電源ケーブルとシリアル ATA ケーブルを、ファンの上にかからないようにファンの横に通します。



！ 制限 HDD に接続したケーブル類がファンの上にかからないようにしてください。ケーブルがファンの羽に干渉し、ファンが回らなくなるおそれがあります。

- 9** リンクバーを元の位置に取り付けます。

 p.87 「取り付け」 **6**

- 10** 本体カバーを取り付けます。

 p.78 「取り付け」

続いて、 p.93 「HDD 取り付け後の作業」を行います。

取り外し

HDD の取り外しは、[👉](#) p.89「取り付け」の **3** ~ **7** を次の手順に読み替えて行ってください。

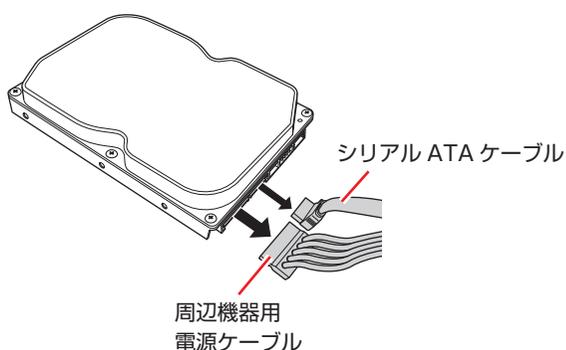


制限

HDD へのアクセス制限を設定している場合は、アクセス制限を解除してから HDD を取り外してください。

[👉](#) p.107「解除方法」

- 1** HDD から周辺機器用電源ケーブルとシリアル ATA ケーブルを外します。



使用しないシリアル ATA ケーブルは、マザーボードから取り外します。ケーブルを取り外す際は、コネクタの金具部をつまんだ状態で引き抜いてください。

- 2** HDD を取り外します。

- 1** 増設用ブラケットを固定しているネジ（4 本）を外し、本機から HDD を取り外します。
- 2** ネジ（4 本）を外して、HDD から増設用ブラケットを取り外します。

- 3** 増設用ブラケットを本機に取り付けておきます。



制限

周辺機器用電源ケーブルは、ファンの上にかからないようにしてください。ケーブルがファンの羽に干渉し、ファンが回らなくなるおそれがあります。

HDD取り付け後の作業

HDD を取り付けたら、[👉](#) p.163「HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）」をご覧ください。ドライブの作成を行ってください。



3

UEFI の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「UEFI」の設定を変更する方法について記載しています。

UEFI の設定を始める前に.....	96
UEFI Setup ユーティリティーの操作.....	97
UEFI Setup ユーティリティーの設定項目.....	110

UEFI の設定を始める前に



制限

当社製以外の UEFI を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の UEFI へのアップデートは絶対に行わないでください。

UEFI は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

UEFI の設定は「UEFI Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。UEFI の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合

UEFI の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

UEFI Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

UEFI Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約 3 年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.149 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、設定値に戻すことができます。

 p.102 「Load Setup Defaults (UEFI の初期値に戻す)」

 p.102 「Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)」

 p.103 「Load Setup User Define (ユーザーの初期設定値に戻す)」

UEFI Setup ユーティリティの操作

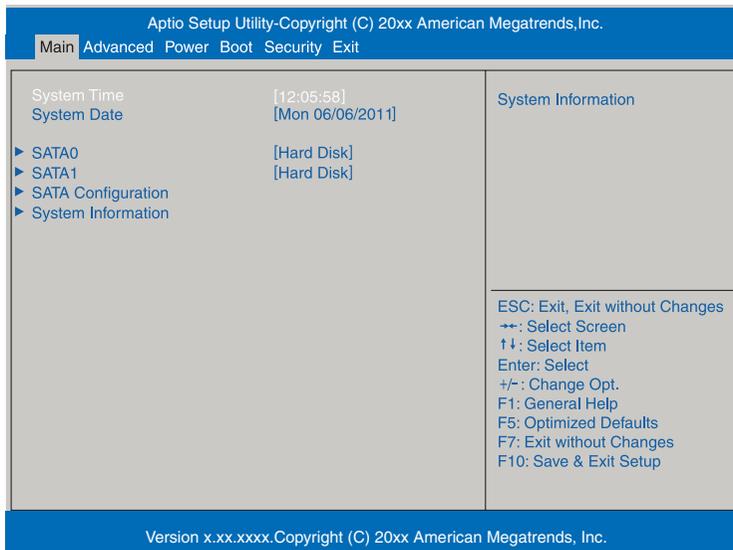
ここでは、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- ユーザーの設定値を保存する
- パスワードを設定する
- HDD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

UEFI Setup ユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **Delete** の位置を確認してください。❶ では、すばやく **Delete** を押す必要があります。

- ❶ **本機の電源を入れ、すぐに **Delete** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。**
「UEFI Setup ユーティリティ」が起動して、「Main」メニュー画面が表示されます。
Windows が起動してしまった場合は、再起動してもう一度実行してください。



< UEFI Setup ユーティリティ画面（イメージ） >

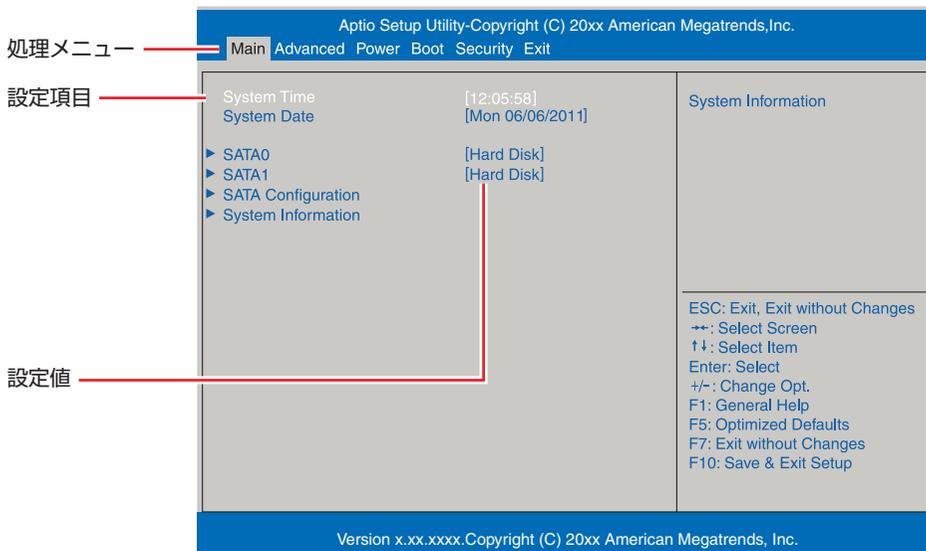
UEFI Setupユーティリティの操作

「UEFI Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、[📖](#) p.110 「UEFI Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の構成

UEFI Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。
この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

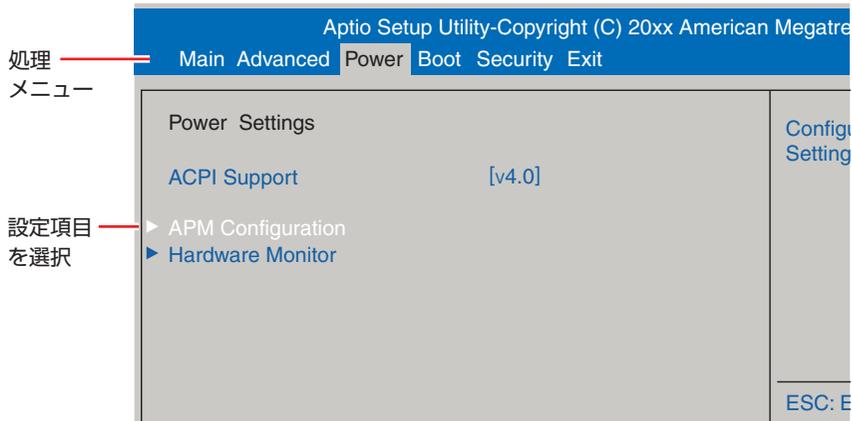
操作方法

UEFI Setup ユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 変更したい設定項目のあるメニューを、処理メニューから選択し、設定項目を選択します。

  でメニュー間を移動します。

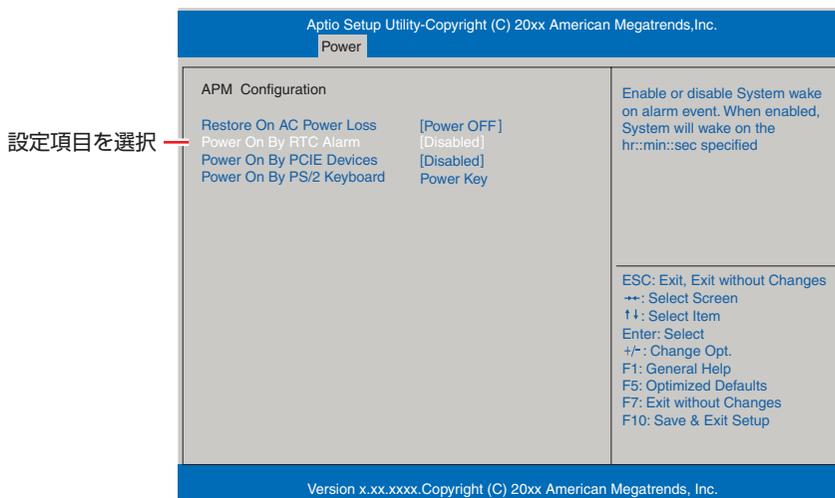
  で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、 を押すとサブメニュー画面が表示されます。  で設定値を変更したい項目まで移動します。



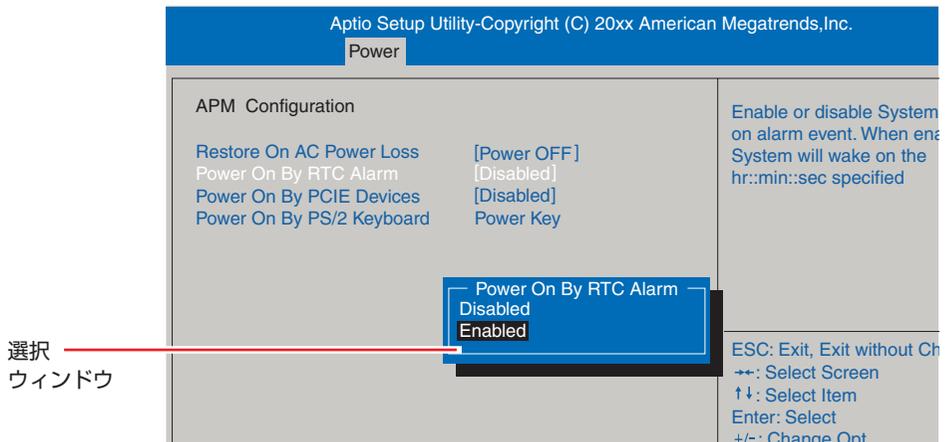
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには  を押します。



2 設定値を変更します。

◀ を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ◀ で決定します。



キー操作

UEFI の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
◀	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F1	ヘルプを表示します。
F5	全設定項目の値を、UEFI の初期値に戻します。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

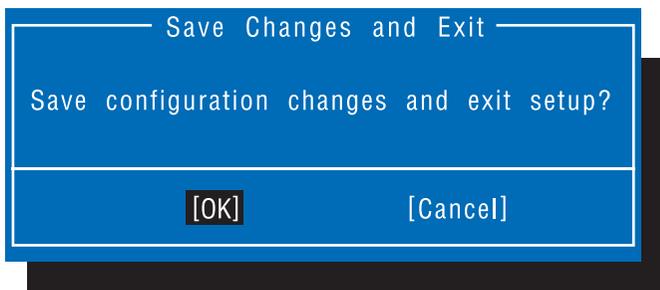
UEFI Setupユーティリティの終了

「UEFI Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択します。
次のメッセージが表示されます。

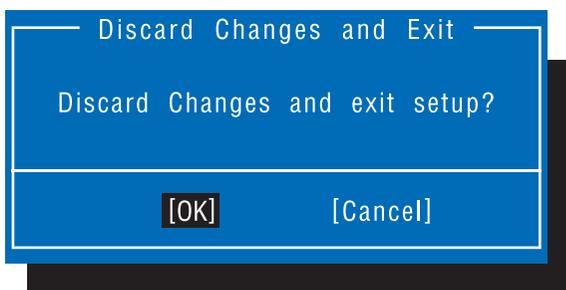


- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

Exit & Discard Changes（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択します。
次のメッセージが表示されます。



- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

設定値を元に戻す

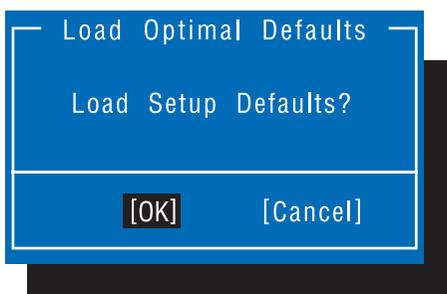
「UEFI Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、設定値を UEFI の初期値や前回保存した値に戻すことができます。機器の増設・交換を行った場合は、UEFI の初期値に戻すことをおすすめします。

Load Setup Defaults (UEFI の初期値に戻す)

設定値を UEFI の初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Security」メニュー画面の項目を UEFI の初期値に戻すことはできません。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択します。次のメッセージが表示されます。

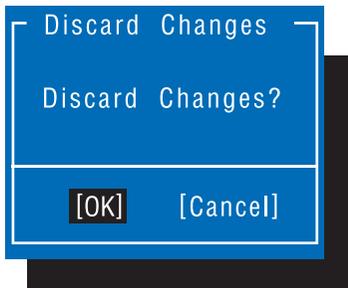


- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。これで設定値が「UEFI の初期値」に戻ります。

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

設定値を前回保存した値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択します。次のメッセージが表示されます。



- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。これで設定値が「前回保存した値」に戻ります。

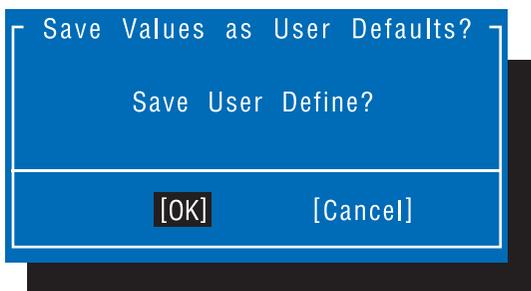
ユーザー設定値を保存する

「UEFI Setup ユーティリティ」の設定値を変更した場合、その状態を「ユーザー設定値」として保存しておくことができます。ユーザー設定値を保存しておく、「Load Setup Defaults」やリチウム電池の脱着を行って、設定値が「UEFIの初期値」になってしまった場合などに、「ユーザー設定値」に戻すことができます。

Save User Define (ユーザー設定値を保存する)

設定値を「ユーザー設定値」として保存する方法は、次のとおりです。

- 1 UEFI Setup ユーティリティの設定値を変更します。
- 2 「Exit」メニュー画面－「Save User Define」を選択します。
次のメッセージが表示されます。



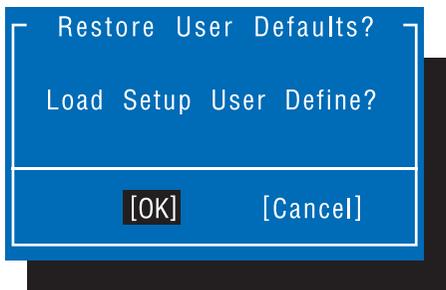
- 3 「OK」を選択し、を押します。
これで設定値が保存されます。

Load Setup User Define (ユーザーの初期設定値に戻す)

設定値を「ユーザー設定値」に戻す方法は、次のとおりです。

※ 「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Load Setup User Define」を選択します。
次のメッセージが表示されます。



- 2 「OK」を選択し、を押します。
これで設定値が「ユーザー設定値」に戻ります。

パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、UEFI や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDD アクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでUEFIにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでUEFIにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができます)。
 p.105 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法を説明します。



設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、UEFIの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。

管理者パスワードの設定

管理者パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードやHDDアクセス制限などが設定できるようになります。

- 1 「Security」メニュー画面－「Change Supervisor Password」を選択して  を押します。

次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

2 パスワードを入力し、を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

3 次のメッセージが表示されたら、確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、を押します。

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Invalid Password」というメッセージが表示されます。[OK] が選択された状態で  を押すと、UEFI のメニュー画面に戻ります。この場合、**1** からやりなおしてください。

4 次のメッセージが表示されたら、「Ok」が選択された状態で を押します。

Password Installed
Ok

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」項目の値が「Installed」に変わります。

パスワード入力タイミングの設定

UEFI Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.116 「Security メニュー画面」 – 「Password Check」

ユーザーパスワードの設定

ユーザーパスワードは、 p.104 「管理者パスワードの設定」 – **1** で「Change User Password」を選択し、管理者パスワードと同様の手順で設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで UEFI にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.116 「Security メニュー画面」 – 「User Access Level」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでUEFIにログオンしてください。

※ HDD アクセス制限やユーザーパスワードを設定している場合、管理者パスワードを削除すると、自動的にHDD アクセス制限やユーザーパスワードも削除（解除）されます。

- 1 「Security」メニュー画面 – 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押します。

次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

- 2 何も入力せずに  を押します。

次のメッセージが表示されます。

WARNING	
Clear Old Password. continue?	
[OK]	[Cancel]

- 3 「OK」が選択された状態で  を押します。

次のメッセージが表示されます。

Password Uninstalled
Ok

- 4 Ok が選択された状態で  を押します。

「Supervisor Password」または「User Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これでパスワードが削除されました。

ユーザーパスワードやHDD アクセス制限を設定している場合に管理者パスワードを削除すると、「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わり、「Hard Disk Protection」は「Disabled」になります。

HDDアクセス制限

HDD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- UEFI や Windows 起動時、休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要になる
- HDD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されない

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限を設定します。

HDD アクセス制限の設定 / 解除方法

HDD アクセス制限の設定 / 解除方法を説明します。

制限

- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- HDD を増設・交換する際は、HDD へのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

設定方法

HDD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は正常に設定できません。
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。
- 2** 「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
 p.97 「UEFI Setup ユーティリティの起動」
- 3** 管理者パスワードを設定します。
 p.104 「パスワードの設定方法」
- 4** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を [Enabled] に設定します。
「Password Check」の設定が [Always] に変わります。
 p.116 「Security メニュー画面」
- 5** **[F10]** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[←]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。
- 6** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

解除方法

HDD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は解除できません。
必ずシャットダウンしてから解除を行ってください。
- 2** 「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
起動時に、管理者パスワードの入力が必要です。
- 3** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を [Disabled] に設定します。
「Password Check」の設定が [Setup] に戻ります。
 p.116 「Security メニュー画面」



4 **F10** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

5 Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

起動(Boot)デバイスの順番を変更する

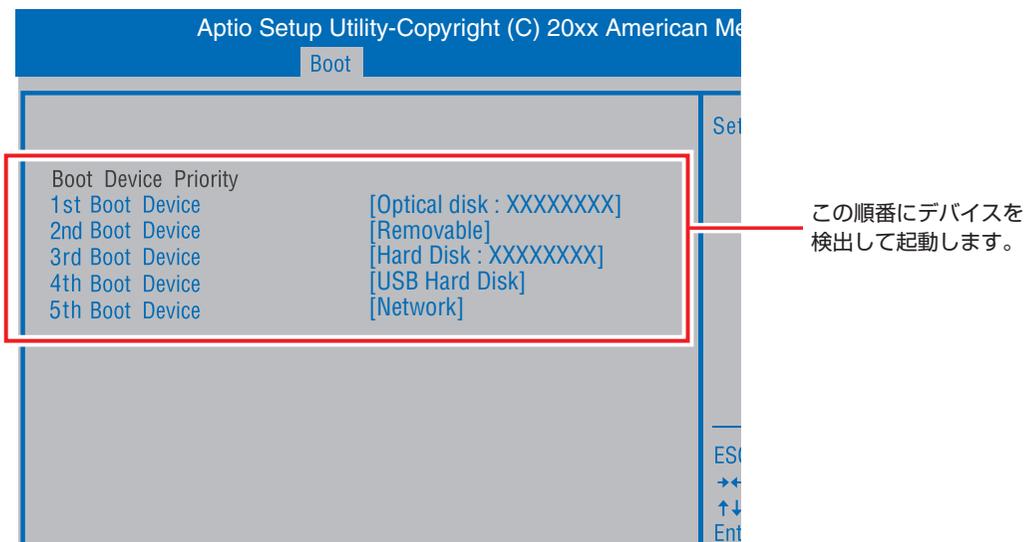
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、USB 記憶装置 (USB フラッシュメモリーや USB HDD など) を接続していると、Windows が起動しないことがあります。
このような場合、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定されている起動 (Boot) デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (OS) から起動します。

起動デバイスの順番は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で設定されています。

 p.115 「Boot メニュー画面」



<イメージ>

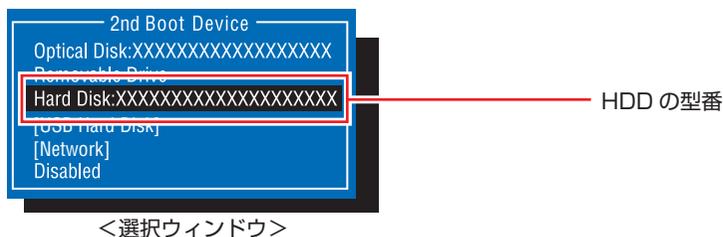
順番の初期値は次のとおりです。

- 1 番目 : Optical disk (光ディスクドライブ)
- 2 番目 : Removable (USB 記憶装置)
- 3 番目 : Hard Disk
- 4 番目 : USB Hard Disk
- 5 番目 : ネットワーク

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

- 1** 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、**↵** を押します。
- 2** サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3** HDD の順番を 2 番目に設定します。
 - 1** **↑** **↓** で「2nd Boot Device」(2 番目) を選択し、**↵** を押します。
 - 2** 選択ウィンドウが表示されたら、**↑** **↓** で「Hard Disk : (HDD の型番)」を選択し、**↵** を押します。
HDD の順番が 2 番目になります。



- 4** **F10** を押して UEFI Setup ユーティリティを終了します。
 p.101 「UEFI Setup ユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOSモードとUEFIモード

本機は、Windows 7 が動作するよう、BIOS モードに設定されています。

- 「Boot」メニュー画面 - 「Boot Settings Configuration」 - 「UEFI boot」: [Disabled]
- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot」: [Disabled]

Windows 8.1 などの OS は、UEFI モードで使用します。

- 「Boot」メニュー画面 - 「Boot Settings Configuration」 - 「UEFI boot」: [Enabled]
- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot」: [Enabled]

※ Windows 8.1 などの OS を BIOS モードで使用した場合は、使用できない機能があります。

<使用できない機能例>

- Secure Boot
- Seamless Boot

UEFI Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。UEFI Setup ユーティリティには、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
日時やドライブの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU やマザーボード上のデバイスの設定を行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムの起動 (Boot) に関する設定を行います。
- Security メニュー画面
セキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面
UEFI Setup ユーティリティを終了したり、UEFI の設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日時やドライブの設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

 は初期値
*は項目表示のみ

System Time	時刻を設定します。(時間：分：秒)
System Date	日付を設定します。(曜日 月 / 日 / 年)

SATA 0/SATA1/SATA2	本機に搭載されているドライブ（シリアル ATA）の設定をします。 ※表示される詳細項目は、ドライブにより異なります。
* Device	ドライブの種類
* Model Name	ドライブの型番
* F/W	ファームウェアのバージョン
* Size	HDD の容量
* LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかを表示します。
* PIO Mode	ドライブの PIO 転送モード
* DMA Mode	HDD の DMA 転送モード
* SMART Monitoring	S.M.A.R.T（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）の状態
Type	ドライブを使用するかどうかを設定します。 Auto : 使用します。 Not Installed : 使用しません。
LBA / Large Mode	LBA（Logical Block Addressing）を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Block Mode	Block 転送モードを使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のままで使用します。
SATA Configuration	シリアル ATA HDD のモードを設定します。
Configure SATA As	シリアル ATA HDD の動作モードを設定します。 初期値 [Standard IDE] のままで使用します。
Standard IDE Mode	初期値 [Enhanced Mode] のままで使用します。
System Information	本機のシステム情報が表示されます。
AMI UEFI	UEFI の情報が表示されます。
* Version	UEFI のバージョン
* Build Date	UEFI のバージョンの制定日
Memory Information	本機に搭載されているメモリーの情報が表示されます。
* Installed Memory	本機に搭載されているメモリー容量

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPU やマザーボード上のデバイスの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

CPU Configuration	本機に搭載されている CPU の設定をします。
* Manufacturer	CPU のメーカー
* Brand String	CPU の型番
* Frequency	CPU の周波数
* Cache L1	CPU の L1 キャッシュ容量
* Cache L2	CPU の L2 キャッシュ容量
* Cache L3	CPU の L3 キャッシュ容量
* CPUID	CPU ID
* Ratio Status	CPU クロックの設定値
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率
Hyper Threading Technology ※機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	ハイパースレディング機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Virtualization Technology ※機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	Intel Virtualization Technology 機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Turbo Boost Technology ※機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	ターボブースト機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Onboard Devices Configuration	マザーボード上のデバイスの設定をします。
Graphics	初期値 [Auto] のままで使用します。
Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Serial Port 1	シリアルポート 1 のアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled: シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
Serial Port 2	シリアルポート 2 のアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled: シリアルポートを使用しません。 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3

Parallel Port Address	<p>パラレルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。</p> <p>Disabled : パラレルポートを使用しません。</p> <p>378/IRQ7, 278/IRQ5, 3BC/IRQ7</p>
Parallel Port Mode	<p>パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。</p> <p>Bi-Directional : EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。</p> <p>EPP : EPP モードに設定します。</p> <p>ECP : ECP モードに設定します。</p>
ECP Mode DMA Channel ※「Parallel Port Mode」を[ECP]に設定すると表示されます。	<p>初期値 [DMA3] のままで使用します。</p>
USB Configuration	<p>USB コントローラーの設定をします。</p>
USB Function	<p>マザーボード上の USB 機能を使用するかどうかを設定します。</p> <p>Disabled : 使用しません。</p> <p>Enabled : 使用します。</p> <p>※マルチカードリーダー（オプション）は内部 USB 接続のため、「Disabled」に設定すると、使用できなくなります。</p>
Legacy USB Support	<p>初期値 [Enabled] のままで使用します。</p>
USB 3.0 Controller	

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

ACPI Support	初期値 [v4.0] のままで使用します。
APM Configuration	本機の起動に関する設定をします。
Restore On AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power OFF：電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power ON：電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State：コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。
Power On By RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
RTC Alarm Date/Hour/Minute/Second ※ 「Power On By RTC Alarm」を [Enabled] に設定すると表示されます。	起動する日時を設定します。 起動日を毎日になりたい場合は、「RTC Alarm Date」を「0」に設定します。
Power On By PCI Devices	電源切断時、PCI 接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
Power On By PCIE Devices	電源切断時、PCI Express 接続のネットワークボード、またはマザーボード上のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
Power On By PS/2 Keyboard	PS/2 キーボードを使用している場合に、起動 / 復帰をキーボードで行えるようにするかどうかを設定します。 Disabled：設定しません。 Ctrl + ESC：  +  を使用します。 Power Key：106 PS/2 コンパクトキーボード（ホットキー付）の場合、Power キーを使用します。
Fan Control	ファンの制御をします。
CPU Fan Control	CPU ファンを制御します。初期値 [Enabled] のままで使用します。
CPU Fan Ratio	CPU ファンの回転率を設定します。初期値 [26%] のままで使用します。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
 Boot 順番の変更方法については、 p.108 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。
 設定項目は、次のとおりです。

 は初期値

*は項目表示のみ

Boot Device Priority	ドライブの起動順番を設定します。
1st Boot Device	1 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：[Optical disk：光ディスクドライブの型番]
2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：[Removable（マルチカードリーダー、USB 記憶装置など）]
3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：[Hard Disk：HDD の型番]
4th Boot Device	4 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：[USB Hard Disk]
5th Boot Device	5 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：[Network]
Optical Disk Drive	光ディスクドライブの起動順番が表示されます。
1st Boot Device ...	光ディスクドライブの起動順番
Hard Disk Drives	HDD の起動順番が表示されます。
1st Boot Device ...	HDD の起動順番
Removable Devices	記憶装置（USB フラッシュメモリーなど）を接続した場合に表示されます。
1st Boot Device ...	記憶装置（USB フラッシュメモリーなど）の起動順番
Boot Settings Configuration	コンピューター起動時の設定をします。
Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：表示しません。 Enabled：表示します。
Bootup Num-Lock	DOS 起動時の NumLock の状態を設定します。 Off：NumLock が押されていない状態にします。 On：NumLock が押された状態にします。
UEFI boot	Windows 7 では、購入時の設定 [Disabled] のままで使用します。
Beep Sound	コンピューター起動時にビーブ音を鳴らすかどうかを設定します。 Disabled：起動時にビーブ音は鳴りません。 Enabled：起動時にビーブ音が鳴ります。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、セキュリティに関する設定を行います。
パスワードの設定方法は、 p.104 「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

 は購入時の状態

*は項目表示のみ

Supervisor Password/User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかが表示されます。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。
User Access Level ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「UEFI Setup ユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「UEFI Setup ユーティリティ」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「UEFI Setup ユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「UEFI Setup ユーティリティ」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「UEFI Setup ユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
Change User Password ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。
Password Check ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「UEFI Setup ユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「UEFI Setup ユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。 「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定すると、[Always] が選択されます。
TPM Function	セキュリティチップ (TPM) の設定をします。
Trusted Platform Module	セキュリティチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Clear Trusted Platform Module ※「Trusted Platform Module」を [Enabled] に設定すると表示されます。	セキュリティチップに保存されている情報を初期化します。 本機で初めて TPM を使用する際は、初期化を行ってください。  p.161 ※初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化する場合は、  を押し、確認画面が表示されたら [OK] を選択します。情報が初期化され、コンピューターが再起動します。再起動後、「Trusted Platform Module」は [Disabled] に設定されます。

Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	HDD へのアクセス制限の有効 / 無効を設定します。アクセス制限を有効に設定した HDD は、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、UEFI、システムへのアクセスが制限され、UEFI 起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDD へのアクセスを制限しません。 Enabled : HDD へのアクセスを制限します。 ※ HDD アクセス制限を設定 / 解除する場合は、必ず本機を一度シャットダウンしてから行ってください。また、設定 / 解除後にも本機をシャットダウンしてください。
*System Mode State	システムモードの状態が表示されます。 User : セキュアブートのキーが適用されています。 Setup : セキュアブートのキーが適用されていません。
Secure Boot	セキュアブートの設定をします。 Windows 7 では、購入時の設定 [Disabled] のままで使用します。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、UEFI Setup ユーティリティを終了したり、UEFI の設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	UEFI Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	UEFI Setup ユーティリティの設定値を、UEFI の初期値に戻します。 ※ 「Security」メニュー画面の項目を UEFI の初期値に戻すことはできません。
Save User Define	UEFI の設定値をユーザー設定値として保存します。
Load Setup User Define	設定値をユーザー設定値に戻します。 ※ 「Save User Define」でユーザー設定値を保存後に機能します。

UEFIの設定値

UEFI Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくことで便利です。ユーザー設定値は、保存しておくこともできます。  p.103 「ユーザー設定値を保存する」

Main メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
SATA0 SATA1 SATA2	Type	Auto	Not Installed	Auto	Not Installed
	LBA/Large Mode	Disabled	Auto	Disabled	Auto
	Block Mode	Disabled	Auto	Disabled	Auto

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration *	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Turbo Boost Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	AUX Disable/Enable	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port 1	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3		Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	
	Serial Port 2	Disabled 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3		Disabled 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	
	Parallel Port Address	Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7		Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7	
	Parallel Port Mode	Bi-Directional ECP EPP		Bi-Directional ECP EPP	
USB Configuration	USB Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

*表示される項目は、CPUにより異なります。

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power OFF	Power ON Last State	Power OFF	Power ON Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCIe Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled	Ctrl + ESC Power Key	Disabled	Ctrl + ESC Power Key

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	5th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On
	Beep Sound	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項 目	購入時の設定		変更内容	
Supervisor Password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
User Password *	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
User Access Level *	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
Password Check *	Setup	Always	Setup	Always
Trusted Platform Module	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Hard Disk Protection *	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

* 管理者パスワードを設定すると表示、または設定可能になります。



4

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールの前に	122
Windows のインストール	125
ドライバー / ソフトウェアのインストール	131
再インストール後の作業	134

再インストールの前に

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に必要な情報を記載しています。

再インストールとは

本書では、HDD をフォーマットして、Windows や本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリー」とも言います。

再インストールが必要な場合

再インストールは、なんらかの原因で Windows が起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合に行います。通常は必要ありません。



参考

HDD 領域の変更

HDD 領域の変更は、再インストールをしなくても、Windows の「ディスクの管理」で行うことができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。

 p.162 「HDD 領域の変更」

Windows を修復する

なんらかの原因で Windows が起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows 回復環境」で Windows の修復を行ってみてください。再インストールをしなくても、問題が解決する場合があります。

 p.152 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windows やソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※ 再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「お役立ち」－「カテゴリから選ぶ」－「Windows の操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成」のデータを復元する方法」

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外の UEFI へのアップデート禁止

当社製以外の UEFI へのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外の UEFI にアップデートすると、再インストールができなくなります。

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業を進めてください。

必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- Windows 7 リカバリー DVD

Windows が収録されています。

- リカバリーツール CD

本体ドライバーやソフトウェアを、HDD の「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されています。

- そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバーやソフトウェアは、HDD の消去禁止領域に収録されているため、専用のメディアは添付されていません。

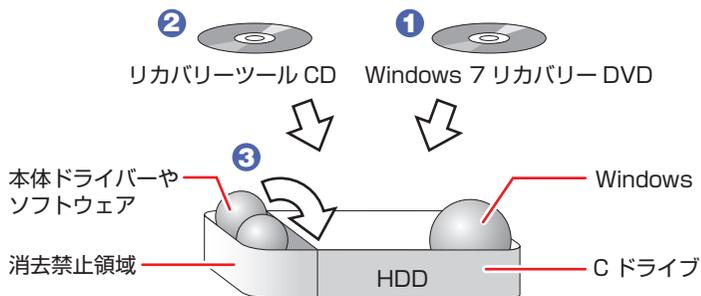
 p.20 「添付されているソフトウェア」

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルでソフトウェアを再インストールするには、外付けの光ディスクドライブが必要です。

再インストールの概要

ソフトウェア再インストールの概要は、次のとおりです。



- 1 Windows 7 リカバリー DVD から、Windows をインストールします。
- 2 リカバリーツール CD から、リカバリーツールをインストールします。
- 3 リカバリーツールを使用して、HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアをインストールします。

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

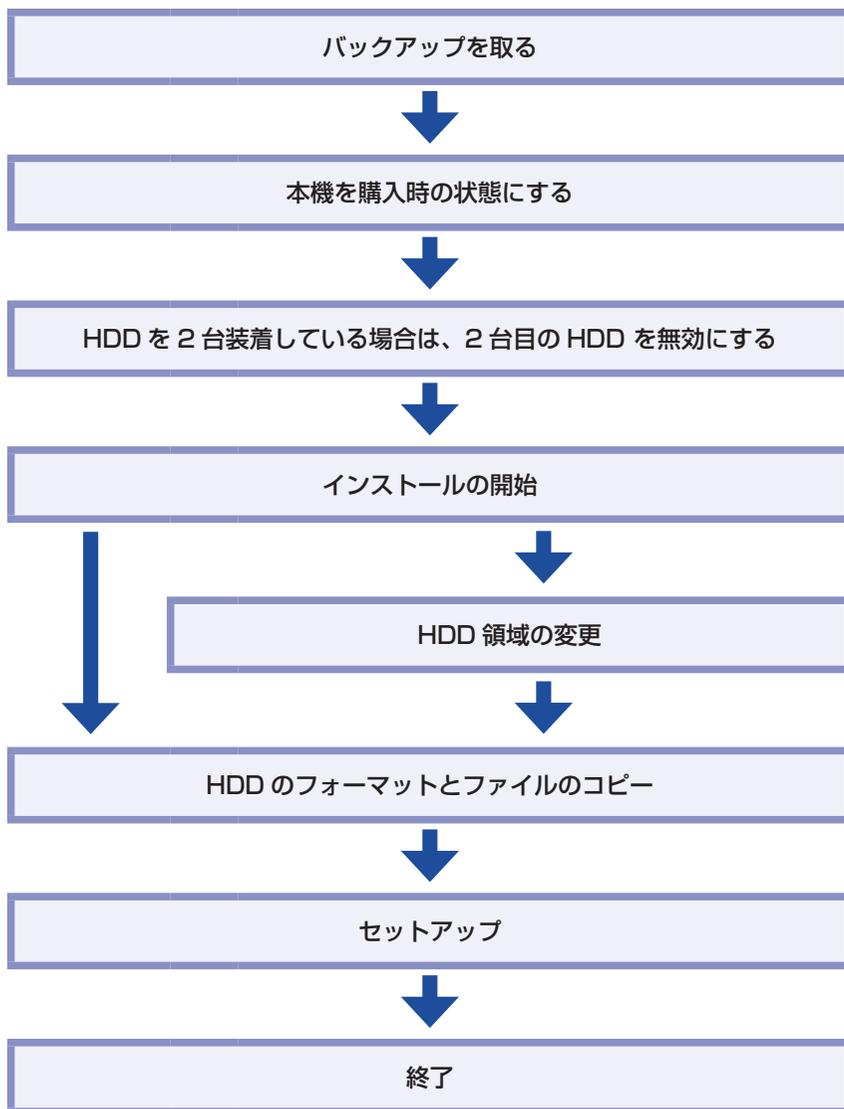
- **管理者 (Administrator) のアカウントでログオン**
インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。
- **システム構成**
本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、UEFI の設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
- **ドライブ名**
本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD 領域の数などによって異なります。
C ドライブ : HDD
D ドライブ : 光ディスクドライブ
- **各種設定やデータのバックアップ**
再インストールを行うと、設定した事項が元に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。
 p.126 「バックアップを取る」
- **初期設定ツール**
初期設定ツールは、Windows を再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールしたソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

Windows のインストール

Windows のインストールについて説明します。

インストールの流れ

Windows のインストールの流れは次のとおりです。



バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、次の設定やデータのバックアップを行ってください。*

- ネットワークの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

- Internet Explorerの「お気に入り」・Windows Liveメールの「アドレス帳」やメールデータ



「PC お役立ちナビ」－「お役立ち」－「カテゴリから選ぶ」－「Windows の操作」－「バックアップ」－「Windows 転送ツールを使う」

このほかの Web 閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- セキュリティーチップユーティリティの設定

セキュリティーチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。



「PC お役立ちナビ」－「マニュアルびゅう」－「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」－「Windows を再インストールする前に」

- そのほか重要なデータ

* 再インストール中に HDD 領域の変更を行うと、C ドライブ以外のドライブ (D や E など) のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。

HDD 領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップを取ることをおすすめします。

本機を購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、UEFI の設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

2台目のHDDを無効にする

HDD を 2 台装着している場合は、再インストール中に HDD の順番が異なって表示されることによるデータの誤消去を防ぐため、2 台目の HDD を一旦無効にします。

ここでは、UEFI で無効にする方法を説明します。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が起動します。
- 2** 「Main」メニュー画面－「SATA1」（2 台目の HDD）を選択します。
- 3** 「SATA1」の「Device」が「Hard Disk」になっていることを確認し、「Type」を「Not Installed」に設定します。
- 4** **[F10]** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

5 Windows が起動することを確認します。

Windows が起動すれば、認識されている HDD に Windows を再インストールします。

Windows、ドライバー、ソフトウェアの再インストールが完了したら、本手順を参考に 2 台目の HDD を有効「Auto」に戻してください。

Windows 7のインストール

Windows 7 のインストール方法は、次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押し、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。

Windows が起動してしまった場合は、もう一度実行してください。

2 「UEFI Setup ユーティリティ」が起動したら、光ディスクドライブに「Windows 7 リカバリー DVD」をセットして、**[F10]** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。

「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、本機が起動します。

3 黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。

Windows が起動してしまった場合は、**1** へ戻ります。

4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

5 オペレーティングシステムの一覧画面が表示されたら、「Windows の起動に伴う…」を選択し、**[次へ]** をクリックします。

6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windows の再インストール」をクリックします。

7 「インストールを開始しますか？」と表示されたら、**[はい]** をクリックします。

8 「インストールするオペレーティングシステムを選択してください」と表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

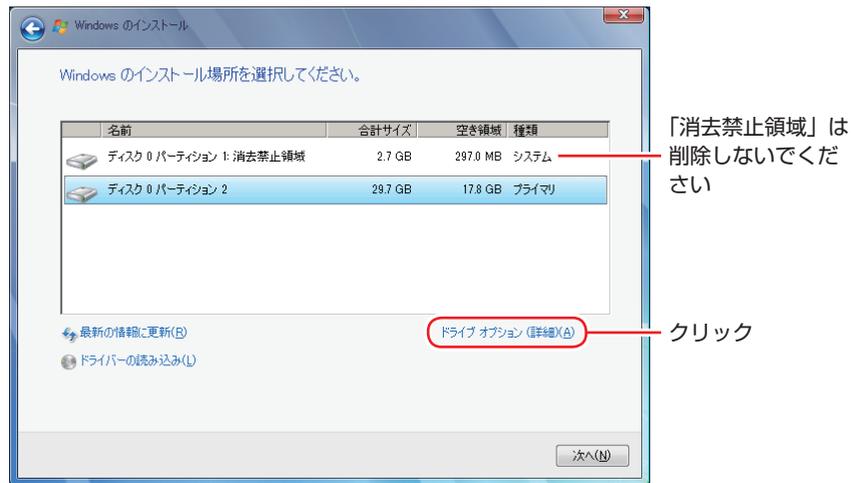
9 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「同意します」にチェックを付けて、**[次へ]** をクリックします。



10

「Windows のインストール場所を選択してください。」と表示されたら、「ドライブオプション (詳細)」をクリックします。

※「消去禁止領域」には、ドライバーやソフトウェアの再インストール用データが収録されています。絶対に削除しないでください。



<イメージ>

場合によって、次のとおり作業を続けます。

領域変更を行わない場合 (通常)

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。
- 3 フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。
「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windows のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～ 40 分かかります。

11 の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

領域変更を行う場合

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
削除したパーティション (C ドライブ) が「未割り当て領域」となります。
- 3 次のとおり作業を続けます。

Cドライブを分割したい場合

(1)「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。

4に進みます。

Cドライブの容量を増やしたい場合

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

(1) 消去禁止領域以外の、そのほかのパーティションをCドライブと同様に削除し、「ディスク 0 未割り当て領域」を増やします。

(2)「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。

4に進みます。

4 Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。

※ Cドライブの目安：80GB (80000MB) 以上

5 「ディスク 0 パーティション 2」(Cドライブ)が選択された状態で、「次へ」をクリックします。

Windowsのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。

11の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

11 「新しいアカウントのユーザー名と…」と表示されたら、ユーザー名、コンピューター名を入力し、「次へ」をクリックします。

※ユーザー名、コンピューター名は半角英数字を入力してください。

12 「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されたら、パスワード(任意)を入力し、「次へ」をクリックします。

13 「コンピューターの保護と…」と表示されたら、更新の設定をクリックして選択します。「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

14 「日付と時刻の設定を確認します」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、「次へ」をクリックします。

15 ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピューターの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。



- 16** Windows のデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows 7 リカバリー DVD」を光ディスクドライブから取り出します。



これで Windows 7 のインストールは完了です。
続いて、本体ドライバーやソフトウェアをインストールします。
 p.131 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」



参考

領域変更を行ったら

Windows のインストール中に領域変更を行った場合は、すべてのインストール作業が終わった後で、「未割り当て領域」をドライブにします。

 p.134 「ドライブを作成する」

ドライバー / ソフトウェアのインストール

Windows をインストールしたら、ドライバーやソフトウェアをインストールします。
購入時のインストール状態は、 p.20 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

リカバリーツールのインストール

ドライバーやソフトウェアをインストールするためのツール「リカバリーツール」をインストールします。

リカバリーツールのインストール方法は、次のとおりです。

- 1** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリーツール」アイコンが表示されます。



<リカバリーツールアイコン>

- 4** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブから取り出します。
これで「リカバリーツール」のインストールは完了です。

リカバリーツールからインストールする

次のドライバーやソフトウェアは、リカバリーツールを使用してインストールします。

- 本体ドライバー
- PC お役立ちナビ
- 標準アプリケーション
 - Adobe Reader
 - Endeavor 電源プラン設定ツール
 - Internet Explorer 11
 - Windows Essentials
 - i-フィルター 30 日版
 - ウイルスバスター クラウド 90 日版
 - Skype
 - セキュリティーチップユーティリティ*
- Nero 12 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時）
- WinDVD（光ディスクドライブ搭載時）

* セキュリティーチップユーティリティは、セキュリティーチップ (TPM) のセキュリティー機能を使用していた場合にのみ、インストールします。詳しくは、次をご覧ください。

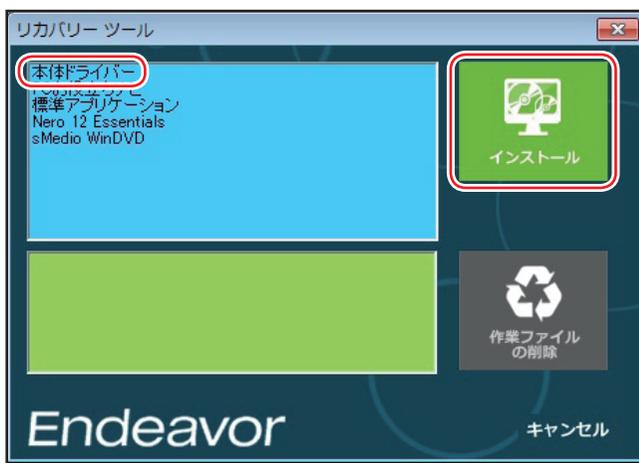


「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅう」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」 - 「Windows の再インストール後の作業」

リカバリーツールからドライバーやソフトウェアをインストールする方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** リカバリーツールが起動したら、[インストール] をクリックします。
- 4** ドライバーやソフトウェアの一覧が表示されたら、インストールする項目を選択して [インストール] をクリックします。

※最初は必ず「本体ドライバー」をインストールしてください。



<イメージ>

- 5** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

本体ドライバーの場合

「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックしてください。インストールが完了したら、[PC再起動] をクリックして、コンピューターを再起動します。

標準アプリケーションの場合

「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、インストールする項目をクリックしてください。

Windows Essentials の場合

「インストールするプログラムの選択」と表示されたら、「インストールする製品の選択」をクリックしてください。製品の一覧が表示されたら、そのまま [インストール] をクリックすると、購入時と同じ製品がインストールされます。



参考

リカバリツールの「ファイル削除」の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で「ファイル削除」が黒字で表示される時は、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。「ファイル削除」をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

そのほかのメディアからインストールする

お使いのシステム構成によって、必要なドライバーやユーティリティ、ソフトウェアをインストールします。インストールは、機器やソフトウェアのメディアを使用してください。

- キーボードユーティリティ
- マウスユーティリティ
- 拡張ボードのドライバー
- プリンターのドライバー
- デジタルカメラのソフトウェア

など



参考

ATOK のインストール

ATOK 無償試用版（30 日間）は、下記のページからダウンロードしてください。

<http://www.atok.com/try/>

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

2台目のHDDを有効にする

再インストールの前に2台目のHDDを無効にした場合は、有効に戻してください。

 p.126 「2台目のHDDを無効にする」



参考

ドライブレターの変更

再インストールでHDDのドライブレターが変わってしまった場合は、設定しなおすことができます。ドライブレターの変更方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 – 「お役立ち」 – 「便利な使い方」 – 「Windows システムの操作」 – 「ドライブレターを変更する」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

- Internet Explorer、Windows Live メールの設定



「PC お役立ちナビ」 – 「お役立ち」 – 「カテゴリから選ぶ」 – 「Windows の操作」 – 「バックアップ」 – 「Windows 転送ツールを使う」

- そのほか重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

ドライブを作成する

Windows のインストール中に HDD 領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままでは使用できません。Windows の「ディスクの管理」でドライブを作成すると、使用できるようになります。ドライブの作成方法は、次の場所をご覧ください。



p.165 「HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）」 – 「ドライブを作成する場合」

ネットワークの設定

再インストールを行う前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークの設定を行います。

Windowsやソフトウェアをアップデートする

再インストールをすると、今までに行った Windows やソフトウェアの更新が元の状態に戻ってしまいます。最新の状態になるよう、アップデートを行ってください。

※ アップデートをするにはインターネットへの接続が必要です。

●Windows

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、最新の状態になります。

 p.62 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

●ソフトウェア

アップデート方法は、ソフトウェアのヘルプやマニュアルをご覧ください。

最新のドライバーを入手する

当社ユーザーサポートページでは、本機の最新ドライバーを提供しています。必要に応じ、ダウンロードしてご利用ください。



「PC お役立ちナビ」－画面下【ダウンロード】



5

困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら.....	138
起動・画面表示できないときは.....	140
トラブル時に効果的な対処方法.....	145

トラブルが発生したら

困ったとき、トラブルが発生したときは、次のように対処方法を探してください。

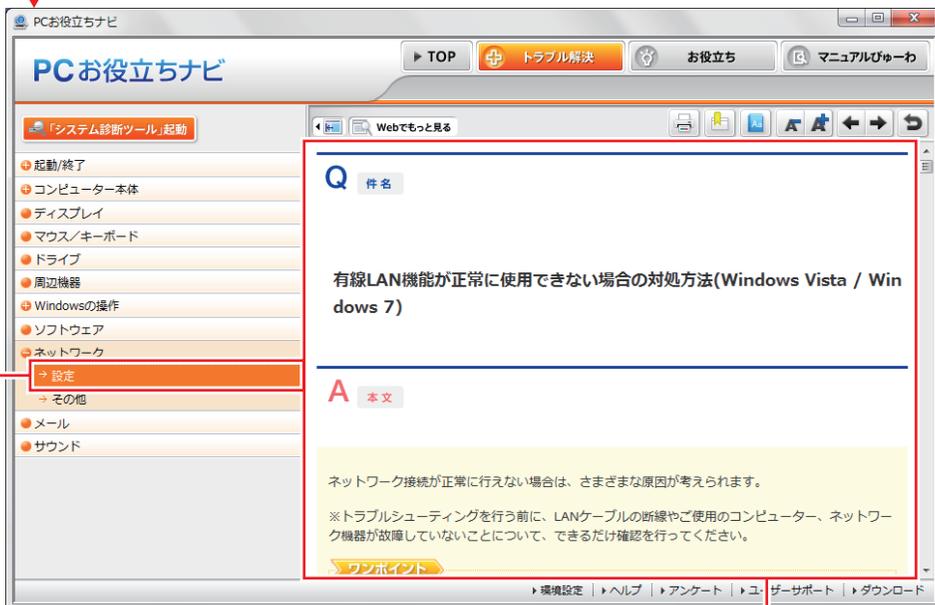
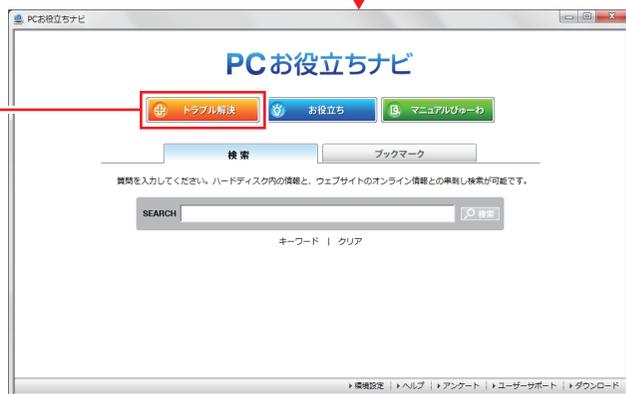
起動・画面表示できる場合…PCお役立ちナビで調べる

コンピューターを起動、画面表示できる場合は、「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」で対処方法を探してください。



<PC お役立ちナビアイコン>

ダブルクリック



トラブルの種類を選択します

候補の中から見たい項目を選択すると、内容が表示されます

システム診断ツール

「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」には、システム診断ツールが搭載されています。

 p.154 「システム診断ツールを使う」



Windows のトラブルシューティングツール

Windows 7にはトラブルシューティングツールを集めたコーナーが用意されています。

「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「コンピューターの一般的な問題のトラブルシューティング」



トラブルシューティングツールの一覧が表示されたら、トラブルに応じたツールをクリックして、トラブルシューティングを行ってください。

起動・画面表示できない場合

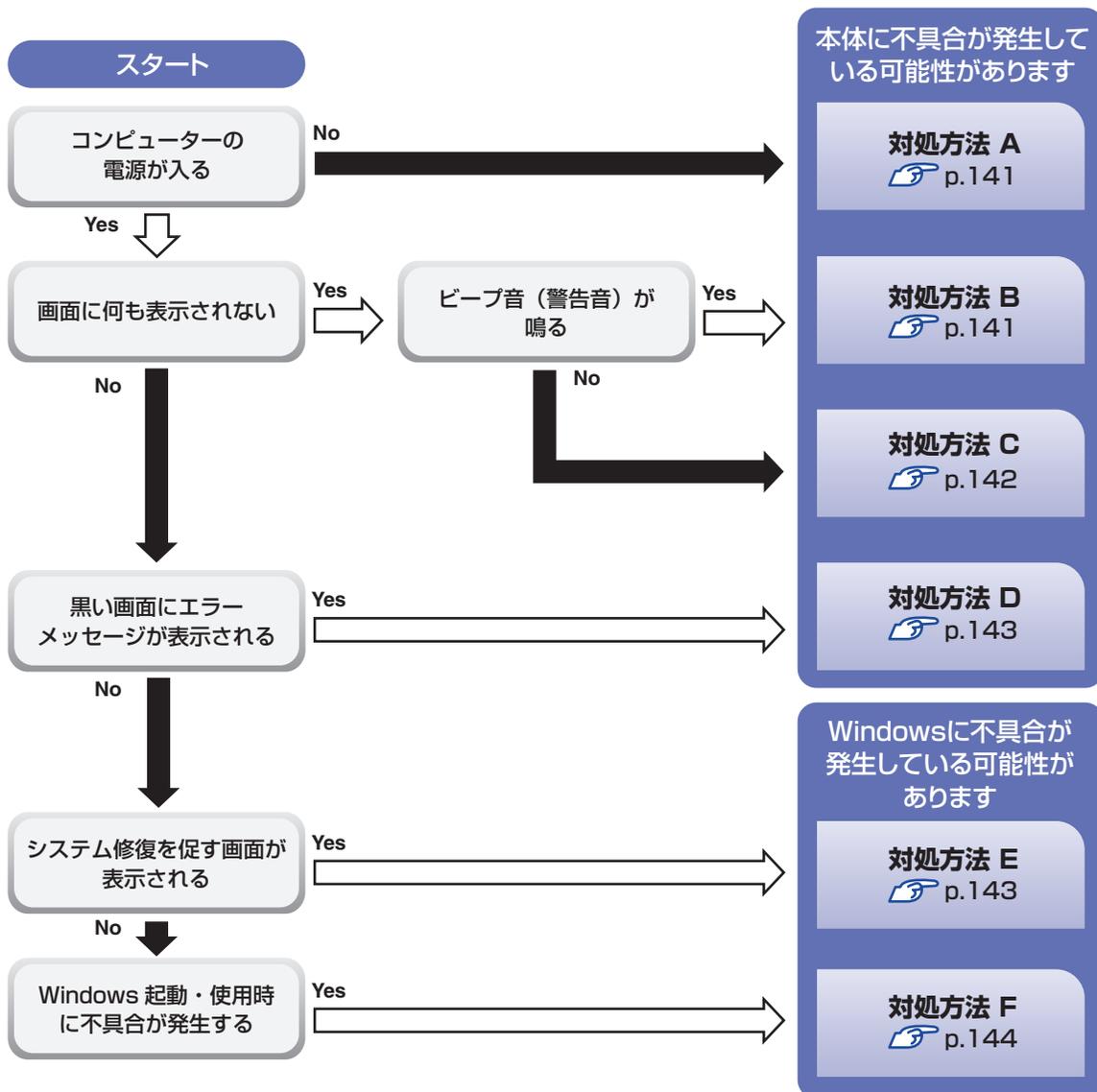
コンピューターを起動、画面表示できない場合は、 p.140 「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

起動・画面表示できないときは

コンピューターを起動、画面表示できない場合は、診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってください。

診断をする

次の診断を行ってください。対処方法が決まったら、 p.141 「対処をする」へ進んでください。



対処をする

コンピューターを起動、画面表示できないときの対処方法は、次のとおりです。
対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、サポート窓口までお問い合わせください。

対処方法 A

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源を入れなおす**
電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。
- 2 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす**
電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 3 壁のコンセントに直接接続する**
電源タップなどにコンピューターの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピューターの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。
- 4 消費電力の大きい機器を停止する**
大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピューターの電源を入れてみてください。
- 5 周辺機器や増設した装置を取り外す**
本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 6 CMOS RAM の初期化を行う**
CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。
 p.149 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

対処方法 B

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす**
電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。



2 メモリーを差しなおす

メモリーに不具合が発生している可能性があります。メモリーを抜き差しし、問題が解決されるかどうか確認してください。本機内部にホコリがたまっている場合は、除去してください。

 p.80 「メモリーの取り付け・取り外し」

3 拡張ボードを差しなおす

拡張ボードを装着している場合は、ボードに不具合が発生している可能性があります。ボードを差しなおし、問題が解決されるかどうか確認してください。

4 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.149 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

対処方法 C

次の対処を順番に行ってみてください。

1 ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

2 ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピューター本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

3 ディスプレイの表示を切り替える

ディスプレイ側に表示の切り替え機能がある場合は、表示を切り替えてみてください。

4 別のディスプレイを接続する

ディスプレイとコンピューター、どちらの問題かを切り分けるため、別のディスプレイをお持ちの場合は、コンピューターを接続し、画面が表示されるか確認してください。

5 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす

電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

6 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

7 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.149 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

対処方法 D

まず、次の表をご覧ください。エラーメッセージに応じた対処をしてください。

メッセージ	内容および対処法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	HDD が検出できません。本機の電源を切り、Windows がインストールされている HDD にケーブルが接続されているか確認してください。 UEFI の設定が変更されている可能性があります。 UEFI Setup ユーティリティで次の項目が [Disabled] に設定されていることを確認してください。 ・ [Boot] メニュー画面 - [Boot Settings Configuration] - [UEFI Boot] ・ [Security] メニュー画面 - [Secure Boot]
CPU Over temperature Error!	CPU が高温になっています。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで 10 分以上待ってから電源を入れてください。
CPU Fan Error!	CPU ファンが正常に動作していません。本機の電源を切り、20 秒以上待ってから電源を入れてください。また、CPU ファンのケーブルが CPU ファンコネクターに接続されているか確認してください。
CPU Over Voltage Error!	CPU の電源電圧が異常です。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで 10 分以上待ってから電源を入れてください。
CMOS Checksum Bad CMOS Date/Time Not Set Press F1 to Run SETUP Press F2 to load default values and continue	 F1 を押すと、UEFI Setup ユーティリティが起動します。通常は、  F5 を押して UEFI を初期化し、時間と日付を修正後、  F10 を押して UEFI Setup ユーティリティを終了すると、Windows が起動します。起動の度にメッセージが表示される場合は、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してみてください。  p.149 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

あてはまるメッセージがない場合は、次のとおり対処してみてください。

1 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.149 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

対処方法 E

次の対処を行ってみてください。

1 表示された画面の指示に従ってシステムを修復する

2 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.121 「ソフトウェアの再インストール」

対処方法 F

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.147 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

 p.147 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.148 「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.148 「前回正常起動時の構成で起動する」

5 UEFI の設定を初期値に戻す

UEFI の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。UEFI の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前に UEFI の設定をメモしておいてください。

 p.102 「Load Setup Defaults (UEFI の初期値に戻す)」

6 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.149 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

7 Windows RE を使う

「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.152 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

8 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。

Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.121 「ソフトウェアの再インストール」

トラブル時に効果的な対処方法

トラブル時に効果的な対処方法を紹介します。

機能	こんなときに
再起動  p.146 本機を再起動します。	・ 使用しているソフトウェアで指示があった場合 ・ ソフトウェアや Windows の動作が不安定になったとき
ソフトウェアの強制終了  p.146 ソフトウェアを強制終了します。	・ ソフトウェアや Windows が、キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなったとき
セーフモードで起動  p.147 必要最低限の状態での Windows を起動します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
常駐ソフトの停止  p.147 不具合のある常駐ソフトを停止します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
システムの復元  p.148 Windows を以前に作成した復元ポイントの状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
前回正常起動時の構成で起動  p.148 Windows を前回正常起動できた状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードでも起動できないとき）
UEFI の初期化  p.102 UEFI の設定を初期値に戻します。	・ UEFI の設定を誤って本機が起動しなくなったとき、動作が不安定になったとき
CMOS RAM の初期化  p.149 CMOS RAM の保存データを初期化します。	・ UEFI の設定を誤って本機が起動しなくなったとき ・ UEFI のパスワードを忘れてしまったとき
リチウム電池の交換  p.149 リチウム電池を交換します。	・ 日時や時間がおかしくなる ・ UEFI で設定した値が変わってしまう
Windows 回復環境 (Windows RE)  p.152 Windows を修復します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
ソフトウェアの再インストール  p.121 本機を購入時の状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（上記項目の対処をしても起動できないとき）
システム診断ツール  p.154 ハードウェアに不具合があるかどうかを診断します。	・ 不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを調べたいとき

再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。
次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windows の動作が不安定になった場合

本機の再起動方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアや Windows がキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
- 2** 表示された項目から「タスクマネージャーの起動」をクリックします。
「Windows タスクマネージャー」が起動します。
- 3** 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。
ソフトウェアが終了します。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1** 電源スイッチ (⏻) を 5 秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

セーフモードでの起動

本機を正常に起動できない場合は、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切り、20 秒程放置します。
- 2** 電源を入れ、すぐに **F8** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

常駐ソフトの停止

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼働中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、**↵** を押します。
- 2** 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
- 3** 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って Windows を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されます。システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面に「推奨される復元」か「別の復元ポイントを選択する」の選択肢が表示された場合は、「推奨される復元」を選択します。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択します。
- 3** [次へ] をクリックします。
- 4** 復元ポイントの一覧が表示された場合は、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。
- 6** 「いったんシステムの復元を開始したら…」と表示されたら、[はい] をクリックします。
コンピューターが再起動します。
- 7** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **F8** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 2** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、**↵** を押します。

リチウム電池の脱着(CMOS RAMの初期化)

「UEFI Setup ユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上の CMOS RAM に保存され、リチウム電池により保持されています。

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約 3 年です。日時や時間がおかしくなったり、UEFI で設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

UEFI のパスワードを忘れてたり、項目設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、リチウム電池を装着しなおすことで、CMOS RAM が初期化され、問題が解決できる場合があります。お試しください。

本機で使用できるリチウム電池は、次のとおりです。

●CR2032 (または同等品)



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。
- 指定のタイプと異なる種類のリチウム電池を取り付けしないでください。爆発の危険があります。



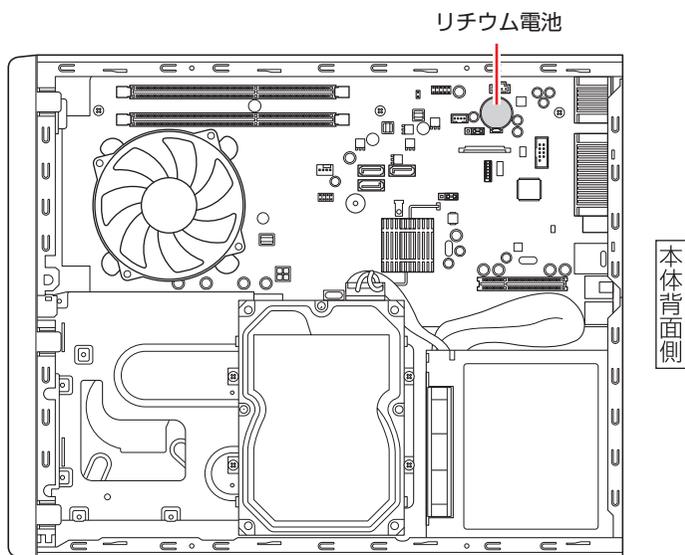
- リチウム電池の取り外しは、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って 10 分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



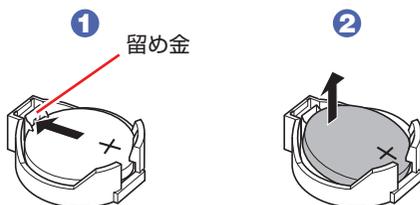
- リチウム電池を取り外すと、現在の UEFI の設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池を取り外す前に、UEFI の設定値を記録しておくことをおすすめします。ユーザーの設定値は、「Save User Define」で保存しておくこともできます。詳しくは、[📄](#) p.103 「ユーザー設定値を保存する」をご覧ください。
- UEFI で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、リチウム電池を取り外しても、HDD へのアクセス制限を解除することはできません。HDD へのアクセス制限を設定した HDD は、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。

リチウム電池の脱着方法は、次のとおりです。

- 1** 本体カバーを取り外します。
👉 p.76 「取り外し」
- 2** 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。
👉 p.85 「取り付け」 **2**
- 3** リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。

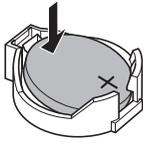


- 4** リチウム電池を取り外します。
 - 1** 電池ホルダーの留め金を押します。
 - 2** リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



- 5** 約 1 分間放置します。

- 6** リチウム電池を取り付けます。
刻印面 (+側) が表側になるようにして取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。



- 7** **2** でリンクバーを取り外した場合は、元どおりに取り付けます。
 p.87 「取り付け」 **6**

- 8** 本体カバーを取り付けます。
 p.78 「取り付け」

- 9** 本機の電源を入れます。

- 10** 黒い画面に「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、**F1** を押します。
UEFI Setup ユーティリティが起動します。

- 11** **F5** を押して、UEFI を初期値に戻します。

- 12** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
ユーザーの設定値を保存しておいた場合は、「Load Setup User Define」で戻すことができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。
 p.103 「ユーザー設定値を保存する」

- 13** **F10** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **↵** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

使用済みリチウムコイン電池の取り扱い

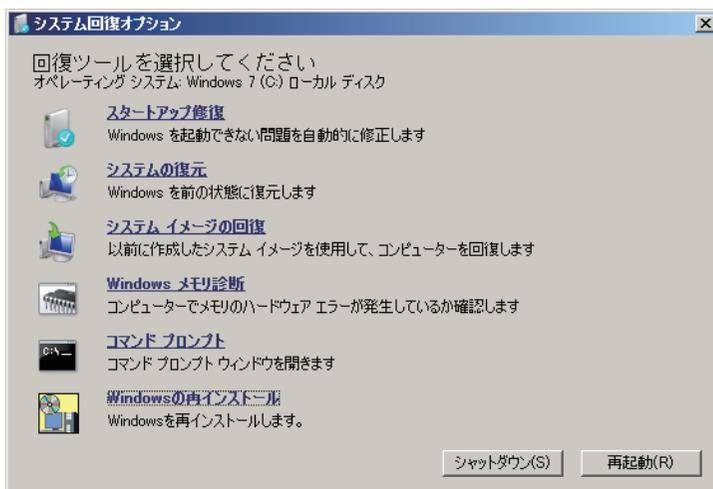
- リチウムコイン電池は、ショートしないようにテープを貼って絶縁してください。
絶縁しないと、破裂、発熱の原因となります。
- リチウムコイン電池は、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。
環境破壊の原因となります。自治体の指示に従って廃棄してください。

Windows回復環境(Windows RE)を使う

本機のHDD内と「Windows 7リカバリーDVD」には、「Windows回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windows REを使用して、修復を行っててください。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。



<イメージ>

● スタートアップ修復

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行っててください。問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行っててください。

※ USB キーボード / マウスご使用時は、修復の終了後に USB キーボード / マウスが反応しない場合があります。その場合は、本機の電源スイッチを5秒以上押し続けて電源を切り、再度電源を入れてください。

● システムの復元

コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。Windowsの動作が不安定な場合に行っててください。

 p.148 「システムの復元」

問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行っててください。

● システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windows やソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※ 再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行っててください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「お役立ち」－「カテゴリから選ぶ」－「Windows の操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成」のデータを復元する方法

- Windows メモリ診断
メモリーにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。
- コマンドプロンプト
コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

HDD 内の Windows RE を起動する

HDD 内の Windows RE を起動する方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切り、20 秒程放置します。
- 2** 電源を入れ、すぐに **[F8]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピューターの修復」を選択し、**[←]** を押します。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
- 5** 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.152 「Windows RE の項目」

DVD の Windows RE を起動する

Windows RE は、「Windows 7 リカバリー DVD」にも収録されています。HDD 内に設定されている Windows RE を消去してしまった場合などに使用してください。
DVD に収録されている Windows RE の起動方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。「UEFI Setup ユーティリティ」が起動します。
- 2** 光ディスクドライブに「Windows 7 リカバリー DVD」をセットして、**[F10]** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[←]** を押します。「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、本機が起動します。
- 3** 黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。



- 5 オペレーティングシステムの一覧が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。
 p.152 「Windows RE の項目」

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、ハードウェアに不具合が発生しているかどうかを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2種類があります。

- PC お役立ちナビから起動するシステム診断ツール
PC お役立ちナビからシステム診断を行うことができます。Windows を起動できる場合に使用します。
- CD から起動するシステム診断ツール
Windows が起動できない場合に、「リカバリーツール CD」からツールを起動してシステム診断を行います。

システム診断を実行する

Windows を起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windows を起動できる場合

PC お役立ちナビからシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「PC お役立ちナビ」アイコンをダブルクリックします。



< PC お役立ちナビアイコン >

- 2 PC お役立ちナビが起動したら、[トラブル解決] - [システム診断ツール起動] をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
- 4 システム診断ツールが起動したら、診断したい項目をクリックします。
該当項目の診断が開始されます。

5 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。

「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。

『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windows を起動できない場合

「リカバリーツール CD」からシステム診断ツールを起動します。

実行方法は、次のとおりです。

1 リカバリーツール CD を光ディスクドライブにセットして、本機を再起動します。

2 黒い画面に「Kernel Loading . . . Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

3 診断が終了したら、診断結果を確認します。

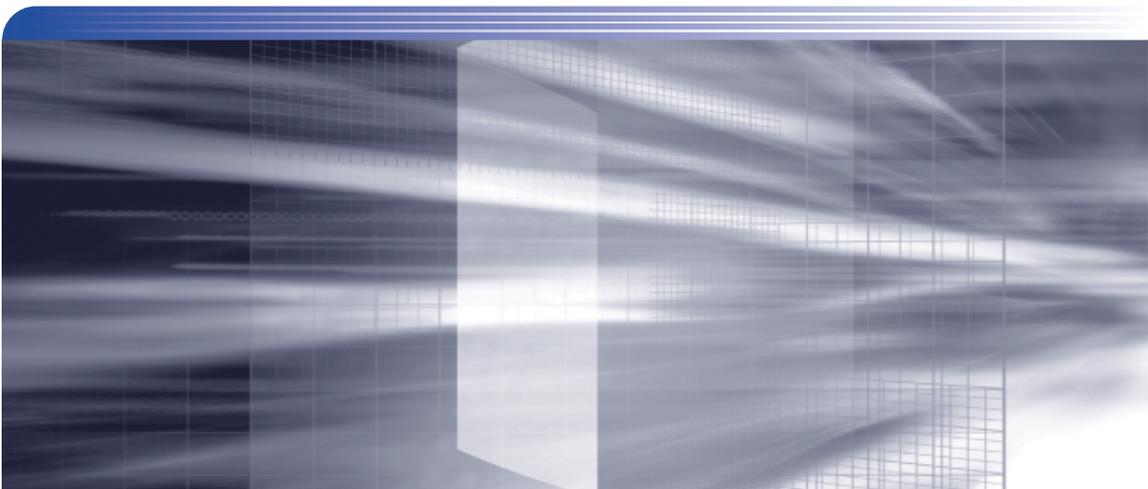
「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。

「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

4 光ディスクドライブからリカバリーツール CD を取り出し、電源を切ります。

これでシステム診断は完了です。





付録

本機のお手入れ方法や HDD 領域の変更方法などについて記載しています。

お手入れ	158
消去禁止領域のデータをバックアップする	159
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化 ...	161
HDD 領域の変更	162
コンピューターを廃棄するときは	166
機能仕様一覧	169

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。

通風孔

通風孔（吸気用）にあるメッシュにホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

コンピューター本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。水分や化学物質により故障の原因となります。

消去禁止領域のデータをバックアップする

HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、USB 記憶装置にバックアップすることができます。

HDD が故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一来に備え、バックアップをおすすめします。

バックアップ方法

バックアップはリカバリーツールを使用して行います。

バックアップ方法は次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、USB 記憶装置（空き容量 5GB 以上）をセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、閉じておきます。

2 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。



<リカバリーツールアイコン>

3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

4 リカバリーツールが起動したら、[バックアップ] をクリックします。

5 本体ドライバーやアプリの一覧の画面が表示されたら、[外付け USB 機器にバックアップ] をクリックします。



<イメージ>

以降は画面の指示に従って書き込みを行ってください。

※ ファイルの保存先は、USB 記憶装置内のフォルダーに設定します。フォルダーがない場合は、新規作成してください。フォルダー名は必ず半角英数字にしてください。

バックアップデータからインストールを行うには

バックアップデータからドライバーやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

- 1** バックアップデータの入った USB 記憶装置を本機にセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「USB 機器」をダブルクリックして開きます。
- 3** USB 記憶装置内のデータが表示されたら、バックアップデータフォルダー内の「EPSONInst.exe」をダブルクリックします。
- 4** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 5** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、インストールしたい項目を選択して [インストール] をクリックします。
以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティーチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。

TPM のセキュリティー機能の使用方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」



制限

TPM のセキュリティー機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPM のセキュリティー機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPM のセキュリティー機能使用前の準備

TPM のセキュリティー機能を使用するには、UEFI の設定と「セキュリティーチップユーティリティー」のインストールが必要です。

UEFI の設定

UEFI の設定は、「UEFI Setup ユーティリティー」で行い、場合により作業が異なります。

 p.98 「UEFI Setup ユーティリティーの操作」

 p.116 「Security メニュー画面」

初めて TPM を使用する場合

- 1 TPM の情報を初期化します。
「Security」メニュー画面 - 「Clear Trusted Platform Module」の実行
実行すると、「Trusted Platform Module」の設定が [Disabled] (無効) になります。
- 2 TPM 機能を有効 [Enabled] に設定します。
「Security」メニュー画面 - 「Trusted Platform Module」: [Enabled] (有効)

Windows を再インストールした場合

TPM 機能が有効 [Enabled] に設定されていることを確認します。

「Security」メニュー画面 - 「Trusted Platform Module」: [Enabled] (有効)

セキュリティーチップユーティリティーのインストール

購入時、本機に「セキュリティーチップユーティリティー」はインストールされていません。TPM のセキュリティー機能を使用するには、セキュリティーチップユーティリティーのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」

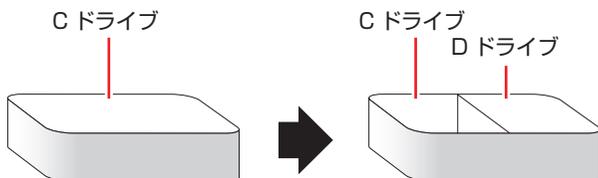
HDD 領域の変更

ここでは、HDD 領域の変更方法について説明します。

HDD領域を分割して使用する(概要)

HDD 領域は、いくつかに分けて使用することができます。

分割したひとつひとつの領域を「パーティション」と言います。また、Windows で使えるように作成した領域を「ドライブ」と言います。



参考

消去禁止領域

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアなどを再インストールするためのデータと「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

HDD 領域分割のメリットとデメリット

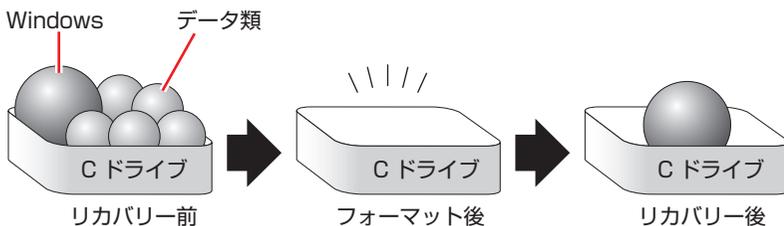
HDD 領域を分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。

HDD 領域を分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

メリット

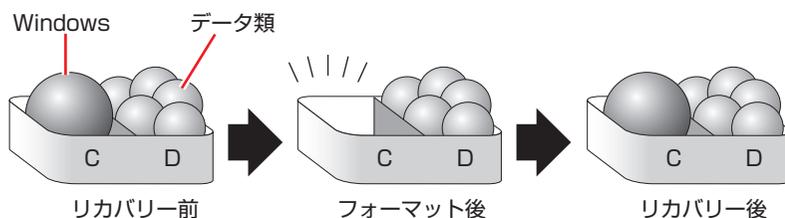
HDD 領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、Windows の再インストール（リカバリ）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD 領域が 1 つの場合



リカバリーを行うと、C ドライブのデータはすべて消去されます。

HDD 領域を分割した場合



たとえば、Windows やソフトウェアは C ドライブに、作成したデータなどは D ドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリーを行うと、消去されるのは C ドライブのみとなるため、D ドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。



制限

リカバリーを行うときは、万一に備え、C ドライブ以外のドライブの重要なデータもバックアップしておくことをおすすめします。

デメリット

- HDD 領域変更の際、ドライブを削除すると、ドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

HDD 領域の変更(拡張/縮小/削除/作成)

HDD 領域の変更は、Windows の「ディスクの管理」で行います。

C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) の領域変更も、「ディスクの管理」で行うことができます。



参考

Windows の再インストール中に領域変更する

HDD 領域の変更は、Windows の再インストール中に行うこともできます。

 p.127 「Windows 7 のインストール」

ドライブの作成は、「ディスクの管理」で行ってください。



制限

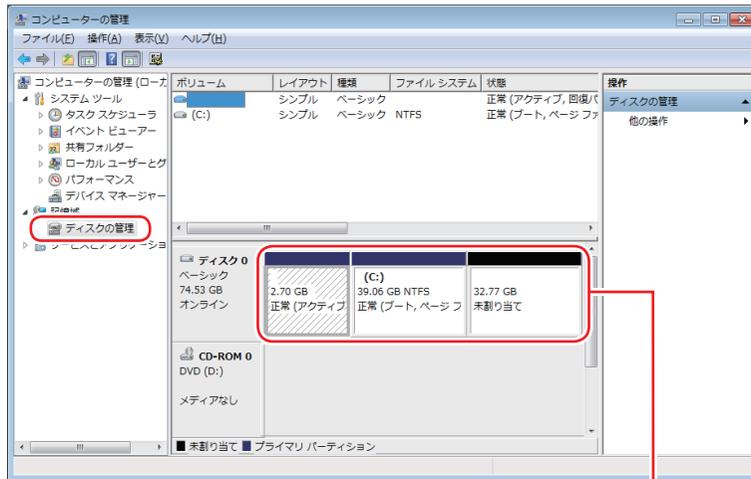
- 作業の前に、重要なデータは外付け HDD などにバックアップしてください。
- 拡張はドライブのすぐ後ろ (右隣) に「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。
- 縮小できるサイズには限界があります。
- C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) は削除できません。
- ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。
- 作成は、「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。

HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）方法は、次のとおりです。

1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとセキュリティ」 – 「管理ツール」 – 「コンピューターの管理」 – 「ディスクの管理」を開きます。

新しいHDDを装着した場合は、「ディスクの初期化」画面が表示されます。2TBを超える容量のHDDの場合は、「ディスクの初期化」画面のパーティションスタイルで「GPT」を選択してください。[OK]をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。

※ HDD容量が2TBを超える場合は、「GPT」を選択しないと使用できません。



<イメージ>

HDD領域の状態

2 HDD領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）を行います。

ドライブを拡張する場合

- 1 拡張するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの拡張」をクリックします。
- 2 「ボリュームの拡張ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ディスクの選択」と表示されたら、「ディスク領域 (MB) を選択」で拡張する容量を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 「ボリュームの拡張ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
ドライブが拡張され、ドライブの容量が増えます。

ドライブを縮小する場合

- 1 縮小するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの縮小」をクリックします。
- 2 「(ドライブ文字) の縮小」画面が表示されたら、「縮小する領域のサイズ」を入力し、[縮小] をクリックします。
ドライブが縮小され、「未割り当て」領域が増えます。
※ C ドライブの目安：80GB (80000MB) 以上

ドライブを削除する場合

- 1 削除するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 2 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。
ドライブが削除され、「未割り当て」領域が増えます。

ドライブを作成する場合

- 1 「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 2 「新しいシンプルボリュームウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 4 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、ドライブが使用できるようになります。

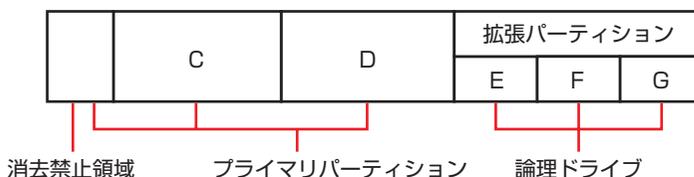


参考

●容量が2TB以下のHDD/SSDのパーティション

- パーティションスタイルは「MBR」です。
- パーティションの種類は、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDD/SSDに作成できるパーティションは最大で4つです。
- 「消去禁止領域」もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>



●容量が2TBを超えるHDDのパーティション

- パーティションスタイルは「GPT」です。
- パーティションの種類は、「プライマリパーティション」のみです。
- 作成できるパーティションの数は、128です。

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄する際の注意事項や、HDD のデータ消去方法について説明します。
パソコン回収サービスについては、下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/guide/recycle/>

コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このHDD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ 付属のリカバリー CD/DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（有償）を利用するか、HDD上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD のデータを消去してください。

リカバリーツール CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD 内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDD のデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** UEFI Setup ユーティリティを起動します。
 p.97 「UEFI Setup ユーティリティの起動」
- 2** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 3** **[F10]** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。
- 4** 黒い画面に「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 5** **[Ctrl] + [C]** を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、**[↓]** で「HD Erase」を選択して **[↵]** を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、**[↓]** で消去したい HDD のドライブを選択して **[↵]** を押します。
- 8** 選択項目画面が表示されたら、**[↓]** で「Full Erase」を選択して **[↵]** を押します。
- 9** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して **[↵]** を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、**[Esc]** を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。



10 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。

消去には、しばらく時間がかかります。実際にかかる時間は「Estimated」に表示されます。

11 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、次の作業を行います。

他の HDD のデータを消去する場合

- ① どれかキーを押します。
- ② システム診断ツールの画面が表示されたら、どれかキーを押します。
- ③ ⑥ ~ ⑩ を行います。

終了する場合

- ① リカバリーツール CD を光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。

これでデータの消去は終了です。

機能仕様一覧

型番	AT992E		
CPU	プロセッサ	購入時の選択による	
	ソケット	LGA1150 Socket	
チップセット	インテル H81 Express		
システムファームウェア	AMI UEFI (BIOS モードで使用)		
メインメモリー ^{*1}	メモリー	PC3-12800 (DDR3-1600 SDRAM)	
	搭載可能容量 (最大)	Windows 7 32bit 版	4GB (システム上利用できるのは約 3GB まで)
		Windows 7 64bit 版	16GB
スロット	DIMM スロット (240 ピン) × 2 (同一容量 2 枚 1 組で使用の場合、デュアルチャネルで動作)		
ビデオ機能 (CPU 内蔵)	コントローラー	インテル® HD グラフィックス (種類は CPU による)	
	メモリー (メインメモリーと共用)	Windows 7 32bit 版	メインメモリー 2GB 時 最大 784MB メインメモリー 4GB 時 最大 1560MB
		Windows 7 64bit 版	メインメモリー 2GB 時 最大 791MB メインメモリー 4GB ~ 16GB 時 最大 1696MB
表示解像度 (最大) ^{*2}	1600 × 1200、1920 × 1200 (ワイドディスプレイ接続時) True Color 32 ビット (約 1,677 万色)		
HDD	シリアル ATA600MB/s 対応 3.5 型 HDD (容量、台数は購入時の選択による)		
光ディスクドライブ (オプション)	シリアル ATA 対応 5.25 型光ディスクドライブ (種類は購入時の選択による)		
マルチカードリーダー (オプション) ^{*3}	コンパクトフラッシュ、SD メモリーカード (SDHC/SDXC 対応)、マルチメディアカード、メモリースティック (PRO/PRO-HG/XC 対応)、スマートメディア		
サウンド機能	インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応コントローラー Realtek 製 ALC662-VD		
ネットワーク機能	1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 対応インテル製 I217V コントローラー		
マウス / キーボード	購入時の選択による		
インタフェース	USB2.0	4 (前面 × 2、背面 × 2)	
	USB3.0	2 (背面 × 2)	
	LAN	1 : RJ-45	
	サウンド	前面 : ヘッドホン出力 × 1、マイク入力 × 1、モノラルスピーカー内蔵 背面 : ライン入力 × 1、ライン出力 × 1	
	ディスプレイ	2 (DVI-D × 1、VGA × 1) : DVI-D24 ピン、VGA ミニ D-SUB15 ピン	
	キーボード	1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン	
	マウス	1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン	
	シリアル	1 : D-SUB 9 ピン	
ドライブベイ	5.25 型ドライブベイ	1	
	3.5 型 HDD ベイ	2	
拡張スロット	2 : コネクター仕様は PCI + PCI Express x4 または PCI + PCI (購入時に選択した拡張ユニットによる) ボード長 178mm まで搭載可能		
セキュリティーチップ (TPM)	TPM 1.2 対応 Infineon SLB9655TT1.2 コントローラー		
本体寸法 (幅 × 奥行 × 高さ)	99 × 383 × 310mm (スタンド・突起部を除く)		
質量	約 6.8kg (基本構成時)		
電源	AC100V ± 10% (50/60 Hz) 容量 : 250W		
消費電力 (最大定格出力時)	305W (理論値)		
動作環境	動作温度 : 10 ~ 35℃、動作湿度 : 20 ~ 80% (ただし、結露しないこと)		

*1 新規メモリー追加や最大搭載可能容量変更の可能性あり (当社ホームページ参照)。

*2 本機搭載のビデオコントローラー出力解像度 (実際の表示は接続するディスプレイの仕様による)。

*3 記載は対応規格であり、すべてのカードでの動作を保証するものではありません。

本書に記載している仕様は製品発売時の情報です。最新情報は次の場所をご覧ください。



[PC お役立ちナビ] - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号 : 27447

エプソンダイレクト ユーザーサポートページ

www.epsondirect.co.jp/support/